

## 今和2年 春季号

令和2年3月25日発行

鹿児島大学農学部 あらた同窓会

話 099-285-8537 振替口座 02010-2-876



### 令和元年度会費納付のお願い

(会計年度:2019年10月1日から2020年9月30日)

鹿児島大学農学部、鹿児島農林専門学校および鹿児島高等農林学校の卒業生で 組織される「鹿児島大学農学部あらた同窓会」(現在まで約2万人の卒業生を輩出 し、それぞれが国内外で活躍しています)の運営は会員各位の通常年会費をはじ め、新入生(学生会員)が納付する入会金と会費などを主な財源としています。

本会は、農学部と協力・連携しながら、「母校の活性化や在学生への支援を行う」、「地域支部会やクラス会などに極力出席する」等に加えて、会報の発行と頒布を通じて「農学部と同窓会の近況や地域支部会、クラス会の情報などを会員にお伝えする」ととともに「会員相互の交流と親睦を図っていく」こと等の活動を行っております。

開学以来、母校が110年以上築き上げてきた「あらたの輝かしい伝統」を次世代に伝承して行くためにも、同窓会活動に対するご理解並びに積極的な参加と協力を賜りますようお願い申し上げますとともに年会費の納入にご協力をお願い申し上げます。

年会費は2,000円です。同封の振込用紙をご利用ください。

## 鹿児島大学農学部あらた同窓会報春季号 (毎年3月発行) の 「クラス会・グループ便り」へのご寄稿のお願い

毎年卒業式(3月25日前後)に発行している「あらた同窓会報・春季号」には、通常の記事の他に、「支部便り」や「クラス会・グループ便り」のご寄稿をいただき、掲載しています。「クラス会やグループ便り」では、卒業生の学科・学年、友達の集まり、などについて近況をご紹介いただいております。つきましては、数人だけのグループであっても構いませんので、是非ご寄稿をお願い申し上げます。なお、ご寄稿いただける場合には、原稿(できればワードなどの電子ファイル)と写真(こちらもjpgなどの電子媒体)で、毎年1月末日までに事務局までにメールでお送りいただきますようお願い申し上げます。**詳細については、** 

下記事務局までメールまたは郵便でお問い合わせください。

## 事務局案内【事務局執務体制】

執務日:月、水、金曜日 10:00~16:00

TEL · FAX : 099-285-8537

E-mail: aratakai@mc2.seikyou.ne.jp

住 所:〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24

鹿児島大学農学部あらた同窓会

# 目 次

1.	. 会長挨拶		
	光陰流水の如し、一寸の光陰軽んずべからず藤田	晋輔	2
2	. 学部長挨拶		
	農学部教育の「強み」と新たな価値の創造とは橋本	文雄	3
3.	. 退職される恩師		
	鹿児島大学での 40 年間	淳一	4
4	. 農学部開学 110 周年記念ミニ式典開催事	務局	5
5.	. ミ <b>ニ式典記念講演録「開学 100 周年以降の農学部の動き」</b> 北原	兼文	7
6	. 「あらた同窓会功労者」表彰者の選出と表彰について事 🦠	務局	10
7	. 支部便り		
	関東あらた会田中	隆弘	11
	近畿・兵庫あらた会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	興平	11
	岡山あらた会	国一	12
	広島あらた会	聡	13
	佐賀あらた会	茂雄	14
	長崎あらた会	健	15
	大分あらた会	定明	15
	熊本あらた会 坂西	英	16
	鹿児島支部福留	裕志	16
8	. クラス会・グループ便り		
	園芸学科果樹園芸学研究室昭和 59 年卒業生の集まり新堂	高広	17
9	. 学生便り		
	経験ばかりの大学生活農業生産科学科4年 天木	隆裕	18
	大学4年間を振り返って食料生命科学科4年 廣川	侑菜	18
	三本の絃大学院農学研究科 生物環境学専攻2年 篠原	健吾	19
	「故郷もどき」に暮らして」際食料資源学特別コース2年 勝濵	直椰	19
10	). <b>恩師のお慶びならびに同窓の訃報</b> 事 🦠	務局	20
11	. <b>本部便り</b> ························事	務局	21
12	<b>2. 役員名簿</b> ·············事 🦠	務局	25
13	3. 会計報告 ·············事 🤃	務局	25
14	l. 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則事 🧦	務局	28
15	5. <b>編集後記</b>	直也	

## 光陰流水の如し、一寸の光陰軽んずべからず



鹿児島大学農学部あらた同窓会 会 長 **藤田 晋輔** 

大学院修士課程・学部の修了・卒業の皆様おめでとうございます。今年も「鹿児島大学農学部あらた同窓会」に新たな正会員をお迎えする日がきました。各々在籍の期間に長短がありますが、鹿児島大学農学部の卒業である事を自負し、自信をもって説明できる鹿児島の大学生活は思い出深い第2の故郷になりましたか?故郷に戻る人、新天地に転じる人色々でしょうが、皆さんの故郷、新天地にある「あらた同窓会支部」との連携が強くなること期待します。私にも先輩方のサポートで解決できた課題、縺れた糸もほぐせた経験があります。本紙「あらた同窓会会報・春季号」は、正会員、学生会員及び現職及び退職された先生方に配布されますので、この会報をぜひ目通しいただき、地域の先輩諸侯と連絡をとり、通常年1回開催される支部総会に参加され、地域の先輩方と交流されることをお勧めします。

皆様は、早速、受動態から能動態の立場となり、全く新しい生活に入ります。幼児、義務教育の時代には、「挨拶と感謝」の基本的な生活対応を叩き込まれたはずです。しかし、最近「挨拶と感謝は必要ない」と仰せの中年の方に出会います。大人の世界は相互信頼、相互サポートがあって成立すると考えていますが、平成の時代で世の中の仕組みは随分変わったのでしょうか?これから大人社会の仲間入りされる皆様には、己の振る舞いを再度顧みて、品格ある大人の行為を身につける事を期待します。

ご存じのように、我が母校鹿児島高等農林学校(第二高等農林学校)は明治41(1908)年に開学し、鹿児島 出身の玉利喜造先生が初代校長に就任されました。大正8(1919)年11月23日、開学10周年記念式典が挙行さ れた際に、以後の鹿児島高等農林学校発展を推進するための強力な団体としてあらた同窓会は、正式に設立さ れました。同年10月第1回目のあらた会会員名簿が発行され、「この時の会員(卒業生)数は1,900余名、内 地(日本国内)、台湾、朝鮮、そして満州、南洋、北米等の至る所に在住し、邦家のために活躍していること は、慶賀に耐えない | と記されています(あらた第25号、創立25周年記念号:編集・発行人 鹿児島高等農林 学校)。大正12(1923)年には同窓会機関誌「あらた」も既に24号となっています。昭和 9 (1934)年に25周 年記念事業が計画され、この計画の中に記念会館「本館(和館:300㎡)と別館(洋館:90㎡)の建築計画が練 られ、昭和9(1934)年3月に着工、9月に竣工しています。これの総工費は16,000円(現在の時価換算約4.6 億円)を同窓会の浄財(一部寄付)の予算で、建築用材はすべて天然屋久スギを使用してありました。この完 成時の記録を見ると、当時先進的な建築物であったのでしょうか。「最新の意匠を凝したる輪奐の美、結構の 粋を以て青松緑芝の玉利池畔に竣工し、本校に清新の一美観を添えたり」と記されています。当時林野庁熊本 営林局3役全員が鹿高農・林学科卒だったそうです。同窓生の繋がりが如何に固いか想像できます。昭和20年 4月太平洋戦争末期鹿児島大空襲の際に鹿児島農林専門学校で焼け残った建物は、今は無き講堂とあらた同窓 会記念会館(本館)だけでした。後年植物園と玉利池の間の現在地に移築され、開学75周年(1985)年の際に 全面的に改修され、建築用材はオール屋久杉であることが明らかとなりました。

2034 (令和12) 年開学125年はあらた記念館創建100年になります。将来とも木造建築にこれだけの天然屋久杉を使用することは不可能です。是非とも今後も維持管理を続け、永久保存、有効活用されることを願っています。鹿児島大学総合研究博物館常設展示室(国登録文化財;旧農学部図書室書庫)に続いて、ひとまず植物園を含めて学内2例目の「国登録文化財」に指定されるよう、今から準備できたら良いと考えています。

(林S37卒)

## 農学部教育の「強み」と新たな価値の創造とは



農学部長 橋本 文雄

令和元年度、この3月25日にご卒業・修了の皆様、誠におめでとうございます。また、あらた同窓会、在校生の皆様、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか?令和になって初めての新年を迎え、皆様、恙なくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、中央教育審議会より「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の答申(H30.11.26)がされ、18 歳人口の減少は著しく、2019年には約118万人であったものが2040年には88万人へと(約25%)減少することから、「いかに学生の可能性を伸ばすことができるかという教育改革を進め、その観点から規模の適正化について検討する必要がある」と指摘しています。さらには、学術の中心である大学の現在の「強み」の維持・強化にとどまることなく、不断の大学改革により、新たな「強み」を持続的に生み出し、次代の社会を牽引する新たな「価値」を創造することが期待されると強調しています。

農学部では短期海外研修プログラムを学部単独で9プログラム実施しており、鹿児島大学内においても国際教育に特化した人材の養成を行っており、上記の「強み」の一つではないかと思います。また、昨年令和元年10月28日と31日には、中国・雲南農業大学と湖南農業大学のそれぞれにおいて交流協定締結30周年記念式典が開催され(写真)、式典の中で今後も交流を継続し、両校学生の国際教育をさらに進んで取り組むことを確認し、新たな「強み」を生み出す第一歩となるよう次なる改革プログラムの準備に着手しました。

一方、鹿児島大学では6つのリカレント教育が開講されており、その内、3つが農学部教員の担当で実施されています。一つは、「林業生産専門技術者」養成プログラムであり、毎年10名程度の社会人教育を継続しており、これまで169名が課程を修了されました。履修証明書はキャリアアップのための職業能力証明に活用できます。二つ目は、焼酎マイスター養成コースであり平成23年に附属焼



鹿児島大学と雲南農業大学の協定締結30周年記念式典(2019年10月28日)



鹿児島大学と湖南農業大学の協定締結30周年記念式典(2019年10月30日)

酎・発酵学教育研究センターを設置の際に、社会人向け「焼酎マイスターコース」が開講されました。焼酎製造業、酒類販売や食品業、観光業などに携わる方々を対象として、焼酎を通じて鹿児島の魅力を発信できる人材を養成しており、これまでに266名のマイスターが誕生しました。三つ目は、2年前に開講した「食品管理技術者養成コース」プログラムで、食品安全の専門人材育成の取組みをベースとして、日本マクドナルド株式会社が採用している国際標準の食品安全や品質管理に関する仕様を取り込んだ食品安全専門人材を育成するもので、(1)「食品管理者養成コース」修了証、(2) JFS-A/B規格「食品安全基礎コース」修了証、(3) JFS-A/B規格「監査員コース」修了証、の3つの修了証を受領することができます。HACCPと食品の安全に関する理解を深め、食品産業界に活躍できる人材を養成します。

農学部・大学院農林水産学研究科修士課程には「強み」の一つであるリカレント教育が充実しており、これらをさらに魅力ある教育プログラムへと新たな「価値」を創造していく中、同窓生の皆様も学びなおしの機会があり受講されてみてはいかがでしょうか?

## 鹿児島大学での40年間



食料生命科学科 安部 淳一

鹿児島大学に着任したのは昭和54年7月、博士課程の学生の身分から突然の転身でした。着任した農芸化学科は農学部3号館(現在のC棟)を占め、最上階の廊下の窓からは当時の獣医学科2号館(現在のB棟)の屋上越しに桜島がとてもよく見えました。吹き上がる噴煙がどちらに流れるかをよく見たものです。今では街中に増えた高いビルや学内の共同獣医学部の大きな建物で遮られてしまいました。また、現在はC棟の屋上をすでに超えている木々は、当時の先端が3階の研究室の高さで、研究室にさしこむ陽射しがとても良かったものでしたが、今では日中でも明かりが必要です。この3月末で鹿児島に来てから40年と8か月が経過します。生まれ育った地での年月よりもずっと長い日を過ごしてきました。学部も農学部という名称は変わりがないものの、3回の改組のたびに学科名や研究室名が長く複雑に変化しています。街も大学も随分と変わりました。

この年月の間に、私たちの教育研究の対象の学問も驚異的に進歩しました。昔はやや厚めの1冊の本だった 生化学の本も、厚みが増し、分冊化するほどに分量が増え、同時にそれぞれの分野が高度化、細分化していま す。昔の本で生体内の反応は

#### (化合物A) -->酵素--> (化合物B)

などと極めて簡単に、ブラックボックス的に表現されていたものですが、今や化合物も触媒である酵素も分子構造が詳細に記載され、反応が原子のレベルで表現されています。それらの分子構造も、昔はあこがれのワークステーション上でしか見られなかったものでしたが、今や学生さんたちにも手が届くノートPC上のフリーソフトで容易に観察できます。学問、研究、それらを支える道具類は進歩したのでしょうが、それと同時に私たちの頃にはすぐそこに見えていた学問の果てがまったく見えなくなったと感じます。学生の皆さんは、どこまで学び、どこまで研究すればそれぞれの研究分野の最先端に躍り出ることができるのかきっと分からなくなっていることでしょう。研究を進めることに魅力を感じてくれているでしょうか?

ネット上に氾濫する膨大な情報を集め、高度な分析機器からのデータをPCで解析し、世界の研究者に伍して研究を進める毎日に少し疲れを感じたらもう最先端には立てなくなりました。最近の大学の教員は教育・研究以外の様々な多くの仕事、いわゆる雑用が増え、ひょっとするとそれらの仕事にかかわる時間の方が長くなっているかもしれません。その上、研究費の捻出が大きな問題です。物、人、お金、いずれが欠けても教育も研究も十分には進めることができません。お金は教授が集めてくれ、教育や運営・管理にはあまり携わる必要がなく、実験に燃える学生さんたちと一緒に研究にだけ毎日励んでいれば良かった40年前の助手と呼ばれていた頃の日々は素晴らしいものでした。とても良い時間を過ごしていたと懐かしく思い出しています。これからの人生が長い学生の皆さんや若い教員の方々が幸せな研究生活・大学生活を過ごして下さることを祈っております。

## 農学部開学 110 周年記念ミニ式典開催

令和元年「鹿児島大学農学部あらた同窓会総会」の 開催に合わせて、「農学部開学110周年記念ミニ式 典」を開催した。平成21年に、「開学100周年記念 式典」を大々的に行ったので、「開学110周年記念 式典」を開催するかどうかについて、2年前から幹事 会→評議員会→総会で議論・検討してきた。

種々の議論の結果、開学100周年記念式典から10年経過したことに対する節目であることもあって、農学部と共催で「ミニ式典」を行うことにした。まず、11月23日の「開学110周年記念式典」に先立って、平成31年3月25日発行の「あらた同窓会報平成31年春季号」に「開学110周年特集」を組むことになり、「あらた同窓会報平成30年春季号」に「寄稿のお願い」を掲載するとともに、全国の支部に対して「寄稿依頼」を行った。その結果、各支部や卒業生から多数の寄稿があり、「平成31年春季号」は例年に比べて2倍の約50ページで発行した。さらに、この「平成31年春季号」は前年・平成30年7月に「同窓会名簿」を作成したこともあり、同窓会費納入の有無に関わらず住所が判明している全会員(総計で約1万人)に頒布し

「農学部開学110周年記念ミニ式典」は毎年の「あらた同窓会総会」開催日の11月23日(土)にジェイドガーデンパレスで「令和元年総会」の後に行った。

「開学110周年記念ミニ式典」では、藤田あらた 同窓会会長挨拶、橋本農学部長挨拶に引き続き、北原 農学部副学部長の「開学100周年以降の農学部の動 き」という記念講演(講演要旨は後段に掲載)の後、 「あらた同窓会」功労者表彰を行った。

「あらた同窓会功労者表彰」については、平成21年の「農学部開学100周年」で制定された規定に則って「選考委員会」が本部および各支部に「功労者候補者」の推薦を依頼した結果、本部及び支部から9人の功労者該当者が推薦された。「選考委員会」は推薦された功労者候補者9人(10ページ参照)について審査した結果、全員を「功労者表彰受賞者」として決定した。

当日の「功労者表彰式」には9人中5人が出席され、表彰状および副賞を授与された。



た。



「鹿児島大学農学部開学110周年記念ミニ式典」におけるご挨拶 (左:藤田あらた同窓会長、右:橋本農学部長)

その後、「あらた同窓会総会」の懇親会が82人の出席で開催された。懇親会では「亡師亡友の霊への黙祷」の後、佐野岩男あらた同窓会副会長の挨拶に引き続き、「功労者表彰者」のうち遠方からご出席の日髙康貴兵庫あらた会会長、山下高徳兵庫あらた会副会長、濵脇吉乃夫岡山あらた会前会長の順に謝意の挨拶が述べられた。さらに、その後、田中隆義あらた同窓会副会長の乾杯で懇親会が進んだ。最後には、八幡正則さん(農学科昭和26年卒)の音頭で鹿児島高等農林学校校歌等の斉唱および万歳三唱が行われ、閉会した。



あらた同窓会功労者表彰者 (出席者のみ)



農学部あらた同窓会功労者表彰者のご挨拶(左から日髙さん、山下さん、濵脇さん)



出席者全員による鹿児島高等農林学校校歌斉唱

## ミニ式典記念講演録

#### 開学100周年以降の農学部の動き

鹿児島大学農学部 副学部長 北原 兼文 (鹿児島大学大学院農学研究科H2修了)

#### 1. はじめに

盛大な鹿児島大学農学部開学100周年記念式典を開催してから、早いもので10年が過ぎました。この度の開学110周年記念を心よりお慶び申し上げますとともに、ご支援いただいております同窓生の皆様に厚く御礼申し上げます。鹿児島大学農学部は、明治41年に創設された鹿児島高等農林学校以来、110年間に輩出された卒業生・修了生は約20,000名に上り、また昭和63年に設置された鹿児島大学大学院連合農学研究科における博士の学位取得者は1,000名を超えています。このような目出度い同窓会総会におきまして、近年の農学部の動きについてお話しする機会をいただきましたことを光栄に思っております。

令和の時代に移行する節目の年に、鹿児島大学長 は、前田芳實先生(農学部出身)が任期満了で退任 され、新学長として佐野 輝先生が就任されまし た。また、農学部長は、岩井 久先生が企画・社会 連携担当理事として大学役員となり、新農学部長と して橋本文雄先生が就任されました。筆者は2期目 の副学部長を拝命し、大学の運営に努めています。 まず、自己紹介いたします。平成2年に本学農学研 究科農芸化学専攻を修了後、日本たばこ産業(株) 勤務を経て、農学部の助手になりました。その後、 1年間のシドニー大学在外研究員を経験し、勤続28 年になります。私の所属する食料生命科学科食品機 能科学コース「応用糖質化学研究室」は、澱粉産業 や発酵産業の盛んな鹿児島において"糖質"に特化し た2つの研究室が昭和41年に設置され、その1つの 「澱粉利用学研究室」を引き継いでいます。初代教 授の蟹江松雄先生、永濵伴紀先生、菅沼俊彦先生の 後、4代目の教授に就任しました。これまで、研究 室発足以来のメインテーマである"地域糖質資源の 特性解明と用途開発"を使命として、カンショの塊根 や葉、培養細胞で形成される器官別澱粉の特性解明 や、共同研究機関と連携して新しい性質を持ったカンショ澱粉を探し求め、澱粉原料用の新品種「こなみずき」や「こないしん」を開発しました。今後も地域に密接した研究テーマで、世界に通ずる新知見を発信したいと思っております。





#### 2. 農学部の最近の取り組み状況

鹿児島大学は、"南九州から世界に羽ばたくグローカル教育研究拠点"を目指しており、この理念の下、農学部の教育では、特にフィールド実践教育やグローバル教育、社会人・リカレント教育を重視しています。以下は近年の農学部の教育・研究の状況です。

- ·教員数(平成31年度):教授29名、准教授36名、 講師2名、助教8名、特任教員3名(合計78名)
- ・在学生数(平成30年度):農学部903名(うち女性401名)、大学院136名(うち女性60名)、鹿児島県所在高校出身35%
- ·卒業後進路(平成30年度卒業):就職率97.9%、大 学院進学率26.6%
- ・フィールド実践教育: 附属農場(学内農場、唐湊 果樹園、指宿植物試験場、入来牧場)、附属演習 林、附属焼酎・発酵学教育研究センターの活用、 特に高隈演習林は教育関係共同利用拠点として2 期目の文部科学省認定(第1期:平成26~30年 度、第2期:令和1~5年度)
- ・世界に向けた教育:農学部主催の9つの海外研修 プログラム(東南アジア諸国、中国、ドイツ、米 国など)による国際感覚の育成
- ・社会人・リカレント教育の充実:「林業生産専門技術者養成プログラム」「焼酎マイスター養成コース」「食品管理技術者養成コース」の3つの履修証明プログラムの実施
- ・研究の状況:学会賞等受賞42件(平成27~30年 度)、外部資金獲得約2.2億円/年(平成27~30年 度平均)
- ・教員の地域貢献:地域に出向いて積極的に課題を 抽出する「農学部地域連携ネットワークプロジェ クト」の推進(平成27年~現在)
- ・鹿児島大学大学院連合農学研究科(博士課程): 佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学(農学・水産 学)の連合による幅広く奥深い国際性豊かな教育

#### 3. 平成28年農学部の改組

平成の時代は、教育の高度化、学際化、国際化が 求められ、教育改革が加速化しました。農学部は平 成2年と平成9年に改組しましたが、その後も世界 のグローバル化および地域的な課題の複雑化に伴う 産業構造や社会情勢の変化は目覚ましく、また地 球的規模での温暖化による気候変動とそれに伴う自 然災害の多発などの現象も見られるようになってき ました。そのような状況の下、鹿児島大学は平成25 年度にミッションの再定義を行いました。農学部で も、本学部の強み・特色を活かし、社会的役割を果 たすため、農畜産物の安全・安定供給や利用・加 工、特殊土壌および災害からの国土保全などの地域 課題、ならびに温暖化対策などの地球的課題に関す る教育研究の推進を学部のミッションとしました。 この間、農学部獣医学科は、平成24年に山口大学と の連携により共同獣医学部の部局に昇格しました。

農学部では、まず平成27年に農学部と水産学部が 連携した教育コース「国際食料資源学特別コース」 を設置しました。この特別コースは、食料資源の持 続的生産とその合理的利用の専門知識を修得し、豊 かな世界観と倫理観を備え、グローバル化する産業 社会に参画し、国際社会に貢献できる進取の精神を 持った人材を育成することを目的としています。定 員は22名と少ないですが、英語力の高い学生が入学 し、また東南アジアからの留学生も多く、国際色豊 かな教育コースとなっています。そして、平成28年 に学部本体の改組として、従来の「生物生産学科」 「生物資源化学科」「生物環境学科」から、教育研 究分野を組み換えて「農業生産科学科」「食料生命 科学科」「農林環境科学科」に改組しました。改組 の観点は以下の箇条書きの通りで、鹿児島大学の理 念に基づき、地域の強み・特色を活かして、世界に 通ずる教育研究の成果を創成します。紙面の都合 上、ここでは各学科の紹介は割愛しますが、学部概 要またはホームページをご覧ください。

(https://acel.agri.kagoshima-u.ac.jp)

- ・我が国の主要な食料生産地域である南九州において活躍する農・畜産分野の技術者・指導者の養成を推進する。
- ・社会的な要請が高まっている食の安全性・利用加工や食品機能と健康に関する教育分野を強化する。
- ・地場産業に貢献する人材養成をさらに推進するために、焼酎・発酵学の教育を充実させる。
- ・地域資源の利活用と地域環境の管理保全・災害対 策に関わる技術者・指導者の養成を推進する。
- ・農学部および水産学部の教育資源を活用し、農水 分野における国際的な対応能力をもつ人材育成を 両学部が連携して行う特別コースを設置する(平 成27年度開始)。

#### 4. 平成31年大学院農林水産学研究科の設置

農畜林水産業の一次産業を基盤に持つ鹿児島において、地域農畜林水産物の高付加価値化、高齢社会・介護社会に向けた食品開発、アジア市場を視野に入れたビジネス展開、持続可能で自然災害への耐性が高い生産環境保全や防災技術の深化など広範囲で高度な教育研究が鹿児島大学に求められるようになりました。そのような声に応えるため、鹿児島大学では農学研究科と水産学研究科を統合して農林水産学研究科を設置しました。両研究科の相互協力により、農畜林水産業に幅広く通ずる人材育成、先進的スマート農畜林水産業を創出する人材育成、先進的スマート農畜林水産業を創出する人材育成、免食成を目的としています。

農林水産学研究科は、既存の農学研究科の3専攻と水産学研究科の5分野を統合し、「農林資源科学専攻」「食品創成科学専攻」「環境フィールド科学専攻」「水産資源科学専攻」の4専攻からなり(図1)、特に再編によって農水融合型となる「食品創成科学専攻」と「環境フィールド科学専攻」では、農学部と水産学部に所属する教員が連携して新たな教育・研究・社会貢献に取り組むことを特徴とします。図2は農林水産学研究科の概要を示しています。

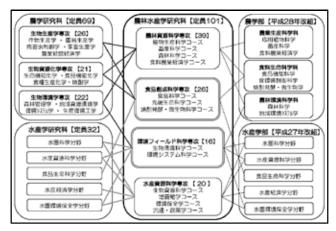


図1 大学院改組における新旧研究科および 学部の教育研究分野との関係



図2 農林水産学研究科の概要

#### 5. おわりに

令和の時代を迎え、Society 5.0社会の実現がますます加速化されます。Society 5.0では、モノの存在を感じるフィジカル空間における「ヒトとヒト」「ヒトとモノ」「モノとモノ」の関係履歴や各種センサーの情報がサイーバー空間に集積され、人工知能による解析のフィードバックの下に、無意識のまま便利な生活を過ごす社会となるでしょう。鹿児島大学農学部は、時代の流れに遅れることなく邁進する所存です。スマート育種・スマート生産・スマート加工・スマート流通の実現への貢献および農林水産環境における環境保全と防災への貢献に取り組みます。そして、我々は生命を糧とする「いただきます」の感謝の気持ちを忘れたくないものです。

末筆になりますが、あらた同窓会報に寄稿する機会を得ましたので、この場をお借りしまして、卒業する学生諸君の門出にエールを送ります。卒業おめでとう! 更なる活躍を祈念します。

### 「あらた同窓会功労者」表彰者の選出と表彰について

「あらた同窓会」においては、創立75周年(昭和59年)から5年ごとに「功労者表彰」を実施することにしている(規則の成文化は2009年3月16日)。令和元(2019)年は5年ごとの「功労者表彰」の年に当たることから、規定に則って「選考委員会」が本部および各支部に「功労者候補者」の推薦を依頼し、本部及び支部から9人の功労者該当者が推薦された。「選考委員会」は推薦された功労者候補者9人について審査した結果、全員を「功労者表彰受賞者」として評議員会および総会に推薦し・承認された。表彰式は「農学部開学110周年記念ミニ式典」において行った。

### 鹿児島大学農学部あらた同窓会功労者表彰規定

第一条 永年にわたり同窓会のために尽力したものを功労者として表彰し、副賞として 記念品を贈呈する。

(選考の基準)

第二条 1 同窓会役員として25年以上活躍し、70歳以上に達した者。

2 特に功績が大きいと認められる者。

(表彰時期)

第三条 表彰はあらた同窓会定期総会において5年毎に行う。

(選考委員会)

第四条 1 同窓会本部に選考委員会を置く。選考委員は会長が委嘱する。

- 2 選考委員会は本部及び全国の各支部に功労者候補者の推薦を依頼する。
- 3 選考委員会は推薦された候補者につき審査し、受賞者を決定する。

(会計)

第五条 この事業に関する会計は特別会計として取り扱うものとする。

#### 2009年3月16日制定

#### メモ 2009年3月

この規定は75周年事業の一環として実施された表彰規定を成文化したものである。

この規定は生存者のみを対象とし、一回のみの表彰とする。

### あらた同窓会功労者

令和元年11月23日

推薦母体		j	£	名	<b>7</b>	卒業学科年次	年齢	役 員 歴 (功績)
兵	庫	日	髙	康	貴	獣昭 37	85	会長7年・副会長3年・常任幹事29年
<del>*</del>		Щ	下	髙	徳	農昭 37	83	副会長10年・幹事23年
岡	Щ	濵 脇 吉乃夫		5夫	農昭 37	81	支部役員30年(幹事、副会長、会長)	
熊	本	東 正隆		総農昭 38	79	会長10年・幹事26年		
		藤	田	晋	輔	林昭 37	80	本部会長6年・幹事10年 本部運営に功績
		前	田	芳	實	畜昭 42	74	本部顧問3年・会長1年・評議員2年・幹事17年 本部運営に功績
鹿児	児島	永	田	鉄	Щ	蚕昭 30	87	本部評議員25年
		堀ぇ	と内	達	男	獣昭 33	87	本部評議員28年
		冨	永	茂	人	園昭 48	70	本部顧問3年・常任副会長4年・幹事23年

## 支 部 便 り

### 関東あらた会総会を開催

令和元年9月23日(月)秋分の日、千代田区の東京国際フォーラム内レストランに於いて第5回総会及び懇親会を開催しました。会には、同窓会連合会関東支部会長の今村 彬氏、法文学部関東地区同窓会長の郷原 剛氏、理学部関東同窓会長代行の古川征弘氏、工学部錦水会関東支部長の田原洋一氏をご来賓に迎え、元園芸学科教授の岩堀修一先生をはじめとして、昭和30年卒から平成24年卒の幅広い年代の会員・合計34名が集まりました。(元農学科教授の阿部正昭先生も出席のご予定でしたが、残念ながら当日欠席となりました。)

総会では、坂口哲夫会長(林S49卒)の挨拶に続いてご来賓を紹介し、代表して今村会長からご祝辞を頂きました。

役員改選では、平成24年から7年間、本会の会長として尽力頂いた坂口氏が勇退されることとなり、 片山賢治副会長(農化S47卒)を会長に、新副会長 2名に肥後賢輔氏(林S52卒)と木内岳志氏(農S 58卒)が就任しました。また、坂口氏は顧問として、副会長を退任した吉村秀清氏(農S47卒)は監事として引き続き本会の運営に関わっていただくこととなっています。さらに、今回、山田朋子氏(農H3卒)に幹事として本会の運営に加わって頂くこととなり、女性会員の活躍にも期待を寄せています。

総会終了後は、新副会長の肥後賢輔氏から「都市 における木材利用の拡大に向けて」と題して、近 年、新国立競技場など都市部を中心として増加して いる中・大規模建築物での木材利用について記念講演をいただき、普段何気なく目にし、コンクリートが当たり前だと思っていた大型施設にも木材が使われ、これから広がっていくことを学びました。

肥後氏は林野庁を退官され、現在は一般社団法人 全国木材組合連合会で木材利用推進本部統括部長と して、国産木材利用の拡大に尽力されています。

その後、記念撮影を終えて、懇親会に移りました。

懇親会は、片山新会長の乾杯で和やかに始まり、 薩摩酒造様と本坊酒造様から協賛いただいた芋焼酎 を味わいながら、それぞれの近況や大学当時の思い 出話に花を咲かせていました。

会も盛況になってきたころには、ご来賓や会員から近況をご披露いただき、それぞれが身近に感じられる楽しい話に、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、鹿児島高等農林学校校歌を全員で合唱した後、岩堀先生の中締めで再会を誓い合い、懇親会のお開きとなりました。

[関東あらた会 幹事 田中 隆博(生産H7卒)]



## 近畿・兵庫あらた会だより

令和元年度近畿・兵庫合同総会の概要

令和最初の通常総会は、5月26日(日)13時から JR尼崎駅北側のホテル「ヴィスキオ尼崎(旧ホッ プインアミング)」で8年連続して合同総会となり ました。

本年度の総会には、あらた同窓会本部冨永茂人常任副会長(園S48卒)のご臨席をいただき、総勢19名で和やかに行われました。

はじめに、兵庫あらた会の日髙康貴会長(獣S37 卒)が、出席者が高齢化・固定化しているが一昨年から迫田 太氏(化S29卒)や昨年から田中慶秀氏(化S39卒)が4、50年振りに出席されるなど新たな動きもあり、今後とも頑張って楽しい集まりにしていきたいと挨拶をされました。近畿あらた会内田昭会長(獣S25卒)は、本年も体調不良のため浮津護前会長(林S38卒)が、高齢化に伴う定年制の見直しや木材の確保についていいアイデアが欲しい。平均寿命81歳まで頑張って欲しいと挨拶をされました。

次に、冨永副会長から同窓会本部と母校の最近の動きをお話しいただきました。

その後、特別講演として田中慶秀氏から「癒された に た 温路」と題してスライドを使って

- ①神戸市職員として公害対策基本法制定前に150工場 の汚水処理について指導し、公害防止協定を安上が りに締結させることができた。
- ②係長試験には合格したが、係長には任用されなかったので、40歳で夜に明治東洋医学院に通い鍼灸師の資格を取り、東洋医学の研究にも努めてきた。神戸市定年退職後は、50歳で鍼灸師の資格を得た臨床検査技師の夫人と鍼灸院を開業している。
- ③神戸市在職中に四国88ヶ所1,400kmを2回歩き、その経験や見聞を「癒された遍路」として自費出版した。
- ④日本・ニカラグワ東洋医学大学の客員教授として 現地で指導した他、姫路観光ボランティアとして外 国人相手(英語・スペイン語)の観光ガイドも行っ ている。

などの体験談を紹介いただきました。



記念撮影の後、14時には冨永副会長の乾杯の音頭で祝宴に入り、ビールやプレミア焼酎「佐藤の白・黒」などを酌み交わして歓談が盛り上がったため、恒例の全員からの近況報告は割愛させていただきました。

最後に最年長の渡辺幸博氏(獣S27卒)の発声で「対岳寮第二寮歌」に続き、田代善和氏(畜S46卒)の発声で「北辰斜めに」を、太野垣賢治氏(工S49卒)の発声で「高等農林校歌」を合唱し、16時半に祝宴を閉じました。

なお、来年は5月31日(日)、同会場で合同総会 を開催の予定ですので、関西地区在住の卒業生の皆 様、お気軽にご参加下さい。

[近畿あらた会 常任幹事 藤岡 悦治(農S46卒)] [兵庫あらた会 常任幹事 柳田 興平(獣S46卒)]



## 岡山あらた会だより

令和元年5月26日、岡山あらた会の総会が岡山市の「まつのき亭」で開催しました。

今回は会員8名の出席でしたが、鹿児島からあらた同窓会の末吉武志常任幹事(農工H5卒)のご臨席をいただきました。昨年の総会で濵脇吉乃夫会長(農S37卒)から寺尾国一(農工S45卒)が新会長と代わり、本田隆志副会長(農S50卒)、山本達郎幹事(林S48卒)、甲斐みちの副幹事(院獣S51修了)の新体制の令和元年のスタートとなりました。

会長挨拶の後、末吉幹事よりご挨拶をいただき、 鹿児島大学農学部・大学院農学研究科の概要説明が あり、学部の組織改組で学科の名称が変わったとは 聞いていたが、農業生産化学科、食料生命科学科、 農林環境科学科等何が何になったのか少しは理解 する事が出来た。末吉先生は私と同じ農業工学科卒 ですが、現在は地域環境システム学の助教で、私が

卒論で関わったさとうきび関連の研究も現在されて いると聞き、同じ話題で大学生活を懐かしむことが できました。本部からの先生出席の際には、あらた 同窓会冨永副会長のご配慮をいただき有難うござい ました。濵脇さんよりの乾杯の音頭で懇親会が始ま り、濵脇・池田先輩から差入れの焼酎「島の泉」 「白波原酒」を飲み交わし、近況報告して歓談しま した。濵脇さんは、地元種子島での稲作は2年前か らやめられたとの事だが、自宅の庭での桃の味は自 慢たっぷり。一度は総会開催日を遅らせても収穫の 時期に皆で味わいたいものだ。堤 兼利 (獣S29卒) さんは7年ぶりの出席で、眼の病気でご苦労された ようでしたが、大先輩の久しぶりの元気なお姿と辛 口のお話しで宴会の場を盛り上げていただきまし た。大好きなゴルフは現在されていないとの事でし だが、皆のゴルフ大会の話には懐かしく耳を傾けら れていた。前副会長の池田 勉 (獣S37卒) さんは、 大病を克服して好きなゴルフは今でも月2回とか。 趣味の囲碁も週3回教室に通い楽しんでいるとの

事。本田さんは、農協の農業指導員として週5日勤 務で農家の方に信頼されているようで、米の等級検 査で使う竹製のピンセットの手作り品を参加者にプ レゼント。高尚な趣味で残りの人生は竹細工を楽し むとの事。山本さんは、県庁退職後の週3日の仕事 での若い同僚との会話で活力をもらっている様子。 甲斐さんは、昨年7月の岡山豪雨災害時の避難所に おける家庭動物の対応が良かったとの事で報告書の 纏め、講演等で大忙しの様子。我が学区も避難所へ のペットの避難をどうしたら良いのか困っており早 速相談予定。また、ドクターコースを就学中で論文 作成に奮闘中との事。会員で最も若い川原洋平(環 H14卒) さんは、県北真庭市で林業の仕事をしてお り、ひのき生産量が愛媛県に抜かれ岡山県が2位に なっているので1位になるべく奮闘を熱弁。初めて 同窓会に参加した時はまだ1歳だったお子さんが、 小学校6年生となり学校の作文「6年生の仕事にや りがい」に書いた我が子の成長を見守る優しい3児



のパパ。作文を地元紙の山陽新聞「ちまた」に寄稿したとの事で後日拝読し、父親の愛情を感じました。寺尾は71歳となり高校の同窓会で「自分史」を作成し、残りの人生の目標を掲げ、現在は地域のボランティア先生として、子ども達から若い活力をいただいている。

今年は8名の参加でしたが、末吉先生の参加があり楽しい時間を過ごす事ができました。

4月には冨永副会長より岡山在住の卒業生名簿をいただきましたので、新たな会員確保のために役員 一同頑張りたいと思います。

最後に堤さんより閉会の挨拶があり、母校とあらた会の益々の発展とご健勝を祈念して閉会となりました。その後恒例のカラオケでは自慢の歌を披露して、再会を願って散会しました。末吉先生には、遠い所ご苦労さまでした。

[岡山あらた会 支部長 寺尾 国一(農工S45卒)]



## 令和元年度・広島あらた会総会

台風19号の影響で風が強まる中、令和元年10月12日に広島あらた会総会は第70回の節目を迎えました。本部から地頭薗教授(林S56卒)をお招きし、節目の総会を盛大に開催しました!と書きたかったところですが、参集したのは一昨年とほぼ同人数の14名で、最年少は村上くん(生H10卒、44歳)でした。例年と同じく広島の名店「むすびのむさし」土橋店にて、教授を囲んで和気あいあいと開催しました。地頭薗教授には、ご多忙にもかかわらず広島までお越しいただき、あらためて感謝申し上げます。

地頭薗教授の挨拶に続き、広島あらた会長(広島 支部長)平野先輩(林S38卒)の「ふるさと鹿児島 を思い出し、楽しく飲もう」との乾杯の音頭で開会 しました。今回も当会最年長の伊藤先輩(獣S25卒) が元気な姿をお見せになり、そのほかの諸先輩方もスポーツボランティアであるとかPTC活動であるとか、また企業への再就職、公共職場での再任用などで活躍されている近況を報告いただき、その話に笑ったり、感心したりしながら、楽しく食べて飲むことができました。在学中ラグビー部に所属していた藤本先輩(林H2卒)は、日本中を沸かせたラグビーW杯の観戦報告をし、場を盛り上げました。欠席のご返事をいただいた先輩の中にも、まさに「当日観戦のため欠席」という方もおられ、国内の盛り上がりを実感しました。また、高野先輩(林S62卒)は近況報告に加えて、来賓の地頭薗教授が在学中いつも遅くまで研究室におられた思い出に触れ、修士意文が書けたのは地頭薗教授のお陰、と感謝の言葉を添えられていました。

最後に記念写真を撮って総会は閉会し、その後各 自散会となりましたが、せっかく地頭薗教授がお見 えになったということで、在学中に地頭薗教授と苦楽を共にしていた砂防研究室の高野先輩、藤本先輩に加え、砂防とは全く関係のない造林学研究室にいた私辻野の計4名で、今回は、JR広島駅ビルにてささやかな二次会を催しました。

二次会では、在学当時(昭和晩年から平成の初め)の四方山話や最近の土砂災害の最新情報などに続き、母校鹿児島大学の近況についても話を伺いました。近年は2~3名の新入生に対し教授等が一人チューターで張り付き面倒を見る、といった話は、なるほど最近の大学って感じがして、先生も大変だなあと聞いていたのですが、今や学内は学祭中も禁酒だと聞かされた時には、思わず「はぁ~?!」と



大きな声が出るほど驚きました。あの鹿児島大学が…!晴天の霹靂とはまさにこのことでした!!確か同窓会報平成31年春季号で岩井先生が大学改革の功罪的なことを書いてられましたが、これもその一つなのでしょうか?!正直、がっかりしましたが、少子高齢化の中での地方大学を取り巻く昨今の社会情勢等を考えると、地域と調和し、人(子供)を集めるためにはやむを得ないのかなぁと一定の理解はしつつ、やはり母校には、いや鹿児島には、薩摩としての包容力と豪快さを見せ続けてほしいと、切に願うところです。

[広島あらた会 幹事 辻野 聡 (林H2卒)]



## 佐賀あらた同窓会支部だより

佐賀あらた同窓会は、会則に基づいて毎年総会を 開催しており、令和元年度佐賀あらた同窓会総会及 び懇親会を令和元年6月8日(土)15時から、佐賀 市の「グランデはがくれ」で開催しました。

今回は、平成31年に卒業して4月から県内の農業 改良普及センターで働き始めた会員や、今年もます ますお元気な大正生まれの大先輩、法人に勤められ ている先輩、県庁の農業・獣医・林業関係の職員、 果樹農家など25名の参加がありました。総会では、 平成30年度の活動実績及び決算、令和元年度の活動 計画及び予算(案)について協議を行うとともに、 今後、鹿児島大学農学部の卒業生をいかに佐賀県に 呼び込んでいくかといった議論を行うなど、活発に 意見を交わしました。

議事終了後は、鹿児島大学農学部あらた同窓会に取り計らいいただいて、初めてご臨席を賜ることとなった農学部長の橋本文雄先生から、ご挨拶や母校の詳しい近況などの説明に加え、研究されていたトルコギキョウの遺伝や花色の仕組みなどの興味深い

ご報告をしていただきました。橋本先生には、ご多 忙の中、時間を割いてお越しいただきまして改めて 感謝申し上げます。

懇親会では、集まった会員同士の近況の報告や、 大先輩の学生時代の今では考えられないような思い 出ばなし、初めて参加した会員を囲んで母校のこと を語り合うなど、和気あいあいでにぎやかに芋焼酎 などを酌み交わしました。



最後は、恒例の「鹿児島高等農林学校校歌」「第一寮歌"黒潮岸に"」の参加者全員の合唱を行い、ますますの同窓会の発展を祈念して会を閉じましたが、そのあとの2次会、3次会と夜遅くまで交遊を深めました。

次回の佐賀あらた同窓会総会及び懇親会の開催

は、東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーが、佐賀県を通ったすぐ後で盛り上がってきているころになっていると思いますが、佐賀あらた同窓会も多数の出席者の参加で盛り上げるようにしていきたいと考えています。

[佐賀あらた会 幹事長 池田 茂雄(環H6卒)]

### 長崎あらた会平成30年度例会

平成31年1月26日、諫早市において長崎あらた会 平成30年度例会が開催され、18名の方々の参加のも と、総会、特別講演会、情報交換会が行われまし た。

総会では、本会会長の川瀬大三氏(農S46卒)のご 挨拶後、事務局の高田裕司氏(環H6卒)から本年度 会務・経理報告並びに次年度計画について報告およ び会則の改定について説明があり、異議なく承認さ れました。

特別講演会では、中峯浩一郎氏(院農S61修了)に 「長崎県立農業高校の近況」についてご講演をいた だきました。県立農業高校の現在の組織体制および 活動状況、卒業生の就職状況など大変興味深い内容 のご講演で、参加者全員熱心に聞き入っておりまし た。 その後の情報交換会では、時間があっという間に流れ、最後は会長の川瀬氏の音頭で巻頭言、校歌、寮歌を参加者全員で声高らかに合唱し、閉会となりました。

[長崎あらた会 事務局代理 寺本 健(農S59卒)]



## あらた同窓会大分支部の活動

初めて支部総会に出席したのは、卒業し大分県庁に就職してすぐのことでした。先輩から受付を手伝えと指示され、『あらた会とは何?』と思いつつ、言われるままに会場に足を運びました。その時は70名程度の参加で、県の林業部長の先輩が会長、その他威厳のある先輩諸氏が多数出席し、ひたすら焼酎を注いで回ったことを覚えています。途中、鹿児島高等農林学校校歌や巻頭言を朗々と吟じ「北辰斜め」を斉唱するなど鹿大の古風で質実剛健な校風を味わい、学生時代に戻った気分を満喫したことを覚えています。

以来2~4年に一度総会が開催され、約40名~70名の同窓生が参加してきました。この間2度ほど、一村一品で有名な平松知事をお迎えし、オブザーバーとして医学部や水産学部などの卒業生とも連携し開催。平松知事も一緒になって第7高等学校造士寮歌を歌いにぎやかな同窓会となりました。また、

大分県庁農業職員間では退職者の送別会を兼ねて、 OBと現役が出席し、ほぼ毎年同窓会を開催してい ます。林業関係も同様に開催しているようです。

今年度の「大分あらた会」総会は十数年ぶりに令和元年7月27日、大分センチュリーホテルで開催されました。近年はIT時代、メールでつながりを持つ人達が多くなり、同窓会などフェイスtoフェイスを軸に集まる会合は敬遠されがちです。昔ほど参加



者はありませんが、それでも約40名の仲間が集まりました。

「同窓会とは何ぞや!?」私は考えるに、現代は 人との関わりが希薄な時代。そうした中で人情味溢 れ暖かい南国の風土と土地柄、共有の舞台を通じ て、人と人が直接触れ合い、気兼ねなく話ができる 大事な交流の場だと思います。当日は本部から冨永 常任副会長(園S48卒)にも参加していただき、会 場では三國連太郎や緒方直人が出演した映画「北辰 斜めにさすところ」の放映や昔ながらの校歌などを 斉唱し大いに盛り上がり散会しました。

最後に、今年度から私・永井が新たに支部長に選 ばれましたので、ご挨拶かたがた支部総会開催につ いてご報告させていただきました。

「大分あらた会 支部長 永井 定明(農 S 52卒)]

#### 第50回鹿児島大学農学部同窓会 熊本あらた会総会を開催

令和元年11月15日(金)午後7時から熊本市の「アークホテル熊本城前」において会員37名の参加で熊本あらた会が開催されました。今年は冨永鹿児島大学同窓会連合会会長をお迎えし、会員37名の出席のもと、上村副会長の主催者挨拶、冨永連合会会長(園S48卒)の来賓挨拶が行われ、議案もすべて承認され、閉会後は、出席者全員で記念撮影を行いました。懇親会では柳井副会長の乾杯で開宴し、懐かしい大学時代の思い出話で盛り上がり、最後は参加者全員で肩を組み、「北辰斜に(巻頭言から)」および「鹿児島高等農林学校校歌」を熱唱し、にぎやかに閉会しました。

[熊本あらた会 事務局 坂西 英(農H5卒)]





### 鹿児島支部だより

昭和28年9月に設立された鹿児島支部は、鹿児島市郡の11の機関・団体で構成され、現在、会員数432名を誇るあらた同窓会最大の歴史ある支部です。

主な支部全体の活動としましては、支部総会と会員相互の交流を目的としたボウリング大会、それと年2回の幹事会となっておりますが、毎年10月の第3金曜日に開催される恒例の総会・ボウリング大会は、特に大きな盛り上がりをみせる、支部最大にして唯一のビッグイベントとなっており、今年は10月18日に開催されました。

まず総会前に開催されるボウリング大会は天文館の「T-MAXボウル」で行われ、今年度は7つの機関・団体から37名の参加があり、皆さん14レーンに分かれ、豪華な賞品(?)と各職場の名誉をかけて、チーム対抗での熱い戦いが繰り広げられました。

各レーンからは笑い声や歓声が響き、拍手やハイ

タッチする姿が見られ、大変、盛り上がっていました。さて肝心の結果ですが、チーム対抗戦では県庁農政部Bチームが優勝の栄冠を勝ち取り、全体の個人対抗戦では、2ゲームトータルで322点のスコアを叩き出した堀江宏彰さん(県庁農政部/生産H10卒)が、さらに3名の出場で稀にみる激戦(?)となった女性の部では、今徳かおりさん(県農・農協会/園S60卒)が、見事、優勝してクイーンの座に輝きました。

その後、「パレスイン鹿児島」に会場を移し、48名の会員が参加して令和元年度の支部総会が開催されました。幾多の学科再編で名称の変遷もありましたが、昭和48年卒から平成31年卒まで、"あらた同窓会"の名の下に幅広い年代の皆さんが集う盛大な総会となりました。まず伊藤真吾支部長(農・農協会/園S53卒)の挨拶に続き、この度、鹿児島大学同窓会連合会会長に就任された、あらた同窓会本部の冨永茂人常任副会長(園S48卒)から来賓のごあいさつをいただきました。

総会では伊藤支部長が議長を務め、①平成30年度 事業実績及び収支決算について、②令和元年度事業 計画及び収支予算(案)についての2議案が提案ど おり承認され、また併せて新役員についての報告も 含め、滞りなく協議を終えました。

その後、お楽しみの懇親会は、当支部の副支部長で鹿大研究支援センターの田浦 悟教授(農S59卒)の乾杯の発声でスタートし、円卓で自由席となった会場内は、学生時代の思い出話や近況報告、さらにはボウリング大会の反省の弁(?)など、年代や職

場を超えて賑やかな声に包まれるうちに、瞬く間に 焼酎はなくなり、ボウリング個人対抗戦優勝者の堀 江さんの万歳三唱で楽しい宴は幕を降ろしました。

このように、年に一度ではありますが、会員相互 の貴重な交流の場となっている催し物でもあり、事 務局としても皆さんと一緒にいろいろなアイデアを 出し合い、より充実した活動になるよう頑張ってい きたいと思います。

[鹿児島支部 常任幹事 福留 裕志(園 S 56卒)]



## クラス会・グループ便り

#### 園芸学科果樹園芸学研究室昭和59年卒業生の集まり

昨年11月16日(土)に冨永名誉教授を博多に招き、昭和59年3月に果樹園芸教室を卒業した5名が 集まり楽しいひと時を過ごしました。

私たちの学年は卒業して37年が経ち、早い人(熊本さん)で今年が60歳、そう、還暦です。また、冨永先生は私たち学年の10年上の同じ教室の先輩でもあり、今年古稀を迎えられますので一緒にお祝いをしようということで懇親の場を計画しました。

その日は博多近辺のホテルがほとんど空いてなかったため、15:00頃から飲めるお店を探し(早崎さんありがとう)、時間の許す限り楽しみました。 還暦ということで、斎藤さんから「ちゃんちゃんこ」ならぬ真っ赤なTシャツが全員にプレゼントされ、大変盛り上がりました。中でも、行方不明だった学生の頃の果樹園芸教室の作業日誌が見つかったということで熊本さんが持参してくれました。内容を読むと恥ずかしいやら、おかしいやら、なつかしいやら、あっという間に当時にタイムスリップした

ような感じになり最高の酒の肴になりました。

今年は山崎さんと私、来年は斎藤さんと早崎さん が還暦を迎えます。「みんな健康に気を付けてまた このような集まりをしよう!」という再会の約束を して、それぞれ帰途につきました。

[新堂 高広(園S59卒)]



## 学生便り



#### 経験ばかりの大学生活

農業生産科学科 応用植物科学コース 観賞園芸学研究室

天木 隆裕

鹿児島大学に来て4年間、あっという間に過ぎた 大学生活だったと思うとともに、自分がこの文章を 書いていることに若干の照れくささを感じていま す。この執筆依頼を受けてから改めて4年間を振り 返ると、講義や研究、サークルやアルバイト、友人 や海外研修を通じて多くの経験をし、様々な人と出 会い、自分なりの充実した学生生活を送ることがで きたと感じています。

大学に入学した頃は初めて、一人暮らしをするため様々なことに新鮮さや不安感が伴いました。振り返る今も、その当時を思い出し懐かしく感じています。初めての鹿児島弁や火山灰、秋の短さや南国とは思えない程しっかりとした冬、様々な文化の違いなど、その多くは実際に経験しないと得られないことばかりでした。

4年間の大学生活で、1番の経験は何かと考えた時に思い浮かんだのは、海外研修に参加したことです。今まで経験していないことに挑戦してみよう行かれた先輩方の勧めなどが、参加するきっかけるもりました。参加する前は、期待感とと来るのかなどが、期待感とと来るした。参加する前は、非備を立ているのでは、現地の学生と上手く交流出みました。準備の甲斐なくほととがぶっつけて挑戦したのは身に染みて感じましたが、ぶっした経験は、名をしたが、がありに関わってくださったりを決めて頂き、研修に関わってくださった先生方には、心より感謝いたします。

最後に、自分なりの充実した学生生活を送れたのは、友人や同期、先輩方や後輩また、先生方達のご指導のおかげです。そして、何よりどんな時も支えてくれた家族のおかげです。本当に感謝しています。



#### 大学4年間を振り返って

食料生命科学科 食環境制御科学コース 植物栄養・肥料学研究室

廣川 侑菜

長かったようであっという間の4年間でした。私が所属している学科では2年生の後期から実験が始まり卒業までに様々な実験を行いました。学生実験では、主に基礎的な実験の方法を学ぶものでしたが、私は何度も失敗しました。その度に同じ班の人と原因を考え、丁寧に実験をやり直すことで、実験が成功した時には大きな達成感を感じることが出来ました。また、卒論研究では思ったような結果が得られないこともありましたが、なぜそうなったのかを考えることも実験の面白さの一つだと気づきました。

また、学業以外でもさまざまな経験をしました。 入学してすぐ陸上サークルに入り、4年間で5つの マラソンを完走しました。大会はサークルの数人と 出場しましたが、毎年途中でどんなに足を痛めても 全員完走してきました。人は自分には無理だと制限 をかけてしまうことがありますが、マラソンを完走 することできついことも乗り越えることが出来ると 自分に自信を持つことが出来ます。ぜひ、マラソン を走ってみたいと思っている人には挑戦してほしい です。また、海外に憧れがあり、留学や海外旅行も 経験しました。言葉の壁や文化の違いで戸惑うこと も多くあり、自分一人で解決しなければならない状 況に直面しました。毎日小さな不安に一つ一つ挑戦 し自分でも出来ると気づく日々を繰り返すことで成 長できたと思います。これらの経験は自分自身を見 つめ直すきっかけになり、いろいろな考え方・価値 観に触れ、多様性の在り方を理解することも出来ま した。

私の大学4年間は楽しいことばかりでなく、辛い経験もありました。そのような中でとても充実した大学生活を送れたのは周りで支えてくれた方々のおかげです。これからも感謝の気持ちを忘れず、新社会人として頑張っていきたいです。



#### 三本の絃

大学院農学研究科 生物環境学専攻 利水工学研究室

篠原 健吾

太さの異なる3本の絃(げん)を張り、多様な音色を表現するのが三味線の面白いところである。最も太い"一の絃"は低く重たい音でベースの役割を果たし、演奏に深みを与える。次に太い"二の絃"は演奏を補助して音域に広がりを与える。"三の絃"は最も細い糸で、主旋律を演奏することが多い。どれか1つでも欠けると味気なくなってしまう。

私の大学・大学院人生で得た知識・経験を振り返ると、三味線の演奏と近しいものを感じた。そんな 折、本寄稿の執筆依頼があったので、自身の思い返 しも兼ねて引き受けさせていただくことにした。

私は鹿児島大学農学部生物環境学科(現:農林環境学科)に所属し、同大学院に進学した。学部4回生から修士2回生までの3年間は利水工学研究室に所属し、植物プランクトンに関する研究に携わった。この研究は専門性の異なる室内培養実験と数値解析を組み合わせた研究アプローチを特徴としており、多角的な観点から現象をとらえ、深く考察する経験を積んだ。物事に対する考え方というのは、人生の基礎となっており、"一の絃"のようである。

私が鹿児島大学に入学したのは部活動の存在が大きい。人生の半分ほど三味線を趣味としていたので、「邦楽部」に強く惹かれた。邦楽部での4年間は、私の人生を大きく変えたといってもいい。素敵な友人、先輩、後輩に恵まれ、自分にとっての三味線を生きがいとして確立させてくれた。ストレスの多い人生の中で、三味線は心の拠り所になりうると感じた。もちろん友人も。趣味や友人は人生に余裕を与えてくれるので、"二の絃"的な役割を果たしている。

これまでに得た考え方、経験、仲間を糧としながら、私は今を生きている。"一の絃"、"二の絃"を活かしながらメロディーを奏でると、曲としての完成度も高くなるが、純粋に楽しい!

現在は、修士論文の執筆や学会発表の準備、就職に伴う新生活の準備などにあわただしくしているが、焦りや不安は少なく、期待に胸を膨らませている。このような気持ちになれているのは、大学・大学院での経験の賜物である。これから待ち受けている社会の荒波も、三味線を弾くように楽しんで乗り越えていきたい。



#### 「故郷もどき」に暮らして

国際食料資源学特別コース 農学系サブコース

勝濵 直椰

念願の熱帯作物学研究室への配属も決まり、ます ます学生生活に喜びを感じている今日この頃。 鹿大 の門をくぐってから早くも3回目の春を迎える。

大学入学当初は、不慣れな独り暮らしや毎日のように噴火する桜島、そして何よりも、高校同期と分かれ一人鹿児島へ進学した自分の判断に自信を持てなかったこともあり、鬱々とした生活を送っていた。しかし、その不安も取り越し苦労であったことがすぐに判明した。インドネシアのジャカルタで生まれてから兵庫県や神奈川県、アメリカのコロラド州など国内外を転々と移り住んできたが、鹿児島ほど学び、生活に適した土地には巡り合えていない。鹿児島を「故郷もどき」と呼び、慕っていたのは向田邦子であるが、僭越ながら私なりにもこの街の魅力について考えてみた。

まず初めに、鹿児島の魅力はなんといっても暮らしやすさにある。特に、魚や果物をはじめとする食材の豊富さは特筆に値する。自転車一台あれば買い物から市役所、病院に行くのにも事足り、朝夕のラッシュとは無縁だ。また、降灰にこそ慣れないが、高校卒業まで関東平野で暮らした私にとって、桜島の壮大さには驚嘆する日々を送っている。伝統のある大学にふさわしく、街中や食堂のカウンターで鹿大OB・OGの思い出話に耳を傾けられるのも、この街に住む醍醐味である。

さらに、鹿児島は畜産から熱帯作物に至るまで多岐にわたる農業が営まれており、現場ありきの実学である農学を学ぶには最適な場所である。私の所属する国際食料資源学特別コースでは、農・水産学部すべての科目が履修可能であったことにより、講義を通じて鹿児島各地の農山村や食・文化について知識を深められた。来春からは、幼いころからの夢であった熱帯農業にかかわる時間がさらに増え、卒業プロジェクトでは海外での長期活動も行いたいと考えている。

近頃は、帰省中もふとした瞬間に刻々と表情を変える桜島や、照り付けるような日差しがまぶたに浮かぶ。故郷の山や河を持たない引っ越しばかりの私にとって、鹿児島は間違いなく「故郷もどき」になりつつある。

## 恩師のお慶びならびに同窓の訃報

【定年退職】 安部 淳一 令和2年3月31日付

(食料生命科学科・食品機能科学コース・生命高分子化学分野 教授)

【昇 任】 なし 【新 任】 なし

【受 賞】 寺本 行芳(農林環境科学科) 令和元年9月19日:日本砂丘学会賞奨励賞

(判明分のみ)

#### 物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

謹んで哀悼の意		-			
故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名		
小 倉 弘 司	旧賛助	R. 2. 1.15	鹿児島市玉里団地 3-5-21	子息	
河原田 禮次郎	旧賛助	R. 2. 1.14	福岡市東区和白丘 4-31-6	子息	正武
西 谷 寿 道	A.S.16		福井県鯖江市上戸口町		
蔵 元 政 雄	A.S.16	H.28. 6.	東京都世田谷区桜丘 4-7-14	子息	
赤崎義則	A.S.23	H.31. 4.12	鹿児島市西田 2-15-27-1002	夫人	島子
岡 留 善次郎	A.S.26		大分県別府市古市町5組3		
隈 部 重 徳	A.S.29	H.23. 12.15	熊本県山鹿市鹿本中川 858	子息	
田中澄人	A.S.30	H.30. 12.11	福岡市南区屋形原 4-31-15	夫人	
井 上 雅 博	A.S.31	H.30. 4. 6	福岡県朝倉市下浦 744	令嬢	
井之上 準	A.S.32	H.31. 1. 2	福岡市東区高美台 4-29-16	夫人	みなみ
守 田 隆 幸	A.S.45	H.30. 7.26	熊本市西区花園 2-7-18	夫人	和代
巣 瀬 司	A.S.49	H.30. 3.23	埼玉県さいたま市緑区寺山 806-1		
中 村 久 夫	F.S.16	H.31. 1.22	鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉 52-4		
時 崎 勝 彦	F.S.22	H.30. 5.11	鹿児島市紫原 1-17-5		
中 尾 辰 雄	F.S.23	R. 1. 5.15	熊本市東区画図東 2-3-6	令嬢	
山口荘治	F.S.23	H.31. 2. 1	鹿児島市草牟田 2-23-21	夫人	
筒 井 英 明	F.S.24	H.31. 1.30	福岡市早良区百道 3-2-2	夫人	良子
原口庸夫	F.S.24	4年前	鹿児島市東坂元 2-49-11		
中 村 謙 吉	F.S.26	R. 1. 8.29	青森市富田 1-16-15	子息	
宇 城 信 幸	F.S.28	H.30. 9.	宮崎県小林市駅南 130		敏子
濵 田 武 徳	F.S.28	H.30. 8. 8	鹿児島県薩摩川内市東向田町 1-22	夫人	和子
栃木雅夫	F.S.33	R. 1. 5.11	大分市中戸次 5916-2	夫人	
松田健一	F.S.34	H.31. 4.18	鹿児島市坂之上 7-30-48	70,	
中馬達昭	F.S.36	H.30. 2.15	鹿児島県日置市吹上町湯之浦 2350-1	夫人	
田上欣也	F.S.37	R. 1. 5. 3	福岡県北九州市小倉北区熊谷 3-18-4	夫人	千代子
右 田 清 資	F.S.38	H.30. 11. 9	HAPTYNIA BYTTING THE BYTTING OF THE	70,	1113
下園兼司	F.S.40	H.30. 5.23	大阪府和泉市鶴山台 3-9 第 3 住宅 16-203	夫人	
高橋 弘守	S.S.23	H.30. 10. 8	福岡市南区塩原 3-5-22		ミエ
川 尻 幸 夫	S.S.26	R. 1. 5. 3	埼玉県上尾市向山 3-41-13	子息	
橋口裕	S.S.39	H.30. 12.22	鹿児島県南九州市知覧町永里 2660-1		三代子
平野利信	C.S.25	R. 1.	鹿児島県霧島市隼人町小田 372	7 (7 (	-113
永演伴紀	C.S.28	R. 1. 6. 4	千葉県船橋市習志野台 8-41-1-313	夫人	
徳重正信	C.S.30	H.30. 10.11	鹿児島市明和 1-35-6	夫人	
梅田宏	C.S.31	H.30. 4.	payand in yath a see a	7 (7 (	
末 次 雄三郎	C.S.33	H.30. 3.26	鹿児島県姶良市池島町 2-11		
村田裕史	C.S.50		COLUMN TO THE TAXABLE PROPERTY OF		
小山義雄	V.S.18	H.29. 10.31	鹿児島市西伊敷 1-3-7	子息	
福山清晴	V.S.19	R. 1. 8.21	福岡県柳川市大浜町 674-4	子息	明
西橋盛孝	V.S.20	7年程前	福岡県宮若市福丸 200-1	7 75	/*
平木一守	V.S.23	. , 12173	熊本県玉名郡南関町関町 1432		
増 満 基 仁	V.S.25	H.31. 4.10	鹿児島市武 1-40-8	令嬢	
山崎築士	V.S.33	H.31. 2.10	福岡県筑紫野市原田 2132	夫人	
川上博文	V.S.36	H.30. 10. 2	兵庫県豊岡市正法寺 139-3	///	
鬼塚隆司	V.S.43	H.30. 9.10	兵庫県尼崎市西立花町 1-18-14	夫人	マチ子
真方敏行	V.S.47	H.31. 2.14	京都府城陽市市辺五島 31-69	夫人	• / 1
甲斐研一	G.S.29	H.29.	熊本県阿蘇市一の宮町宮地 2453-6	///	
大場猛生	G.S.33	H.30. 5.12	福岡県朝倉市馬田 510	夫人	
鎌田澄利	G.S.33	R. 1. 7. 2	鹿児島県鹿屋市上高隈町 691	夫人	明子
田中俊一郎	E.S.44	H.30. 8.12	鹿児島県薩摩郡さつま町虎居 1428-1	夫人	美智子
佐藤寛	H.S.51	H.30. 10.13	福岡県八女市立花町山崎 1878-3	夫人	大日 J
安崎卓史	生 H.8	11.50. 10.15	鹿児島市魚見町 104-12	人人	
後藤寿教	生 H.16		大分市荷尾杵 1365	<del>                                     </del>	
2	土11.10		八万甲門尾牛 1505		

## 本 部 便 り

#### I. あらた同窓会経理について

「農学部あらた同窓会」の経理状況は、平成29年春季号以降、各支部総会出席時に会費納入のお願いをするとともに、会報(春季号)発送時に、会員には「会費振込のお願い」を、そして会費納入が免除されている「旧賛助会員」、「終身会員」および「80歳以上の会員」には「会報賛助金」のお願いをし、多数の会員から賛助金をいただいたこと、加えて会費納入を郵便局に加えてコンビニでも入金でした。また、「会報印刷費および会報発送費につい、最低価格の会社に競争見積もりを提出して貰い、最低価格の会社に委託する」などの歳出削減努力を行ってきた結果、「基金からの繰り入れ」などの措置をとらなくて済むようになりました。

しかしながら、「あらた同窓会経理」の収入の約 1/3を占めている入学者にお願いしている「入会 金および4年間の年会費(1万円)」の納入率が 年々減少しており、このことは今後の「あらた同窓 会」経理に大きなマイナス影響を及ぼすものと考え られます。今後は、新入生にお願いしている入会 金の納入率をアップする方策を考えていく必要があ ります。なお、平成29年度から常任幹事への手当支 給を停止していたことに関連して、会計監査委員か ら「謝礼相当の手当を支給するのが望ましい」との 指摘があったことから、学内幹事会で対応を検討し た結果、平成30年度から常任幹事と一般の学内幹事 の全員に年額1万円の謝礼を支給することにしまし た。

また、鹿児島大学同窓会連合会を通じて各同窓会に対して協力が求められた『鹿大「進取の精神」支援基金』を平成29年度に他学部同窓会と同額の300万円を一括寄付しました(うち150万円は平成28年度一般会計の剰余金から拠出し、残りの150万円については基金特別会計から一時借用した)。基金特別会計から借用していた150万円のうち50万円について平成30年度一般会計から返還しました。

#### Ⅱ.事業及び会計に関する報告

(会計年度:平成30年10月1日~令和元年9月30日)

#### 1. 令和元(平成31)年度総会

令和元(平成31)年度総会は令和元年11月23日 (土)15:00から15:30まで鹿児島市上荒田町の ジェイドガーデンパレスで、82人の来賓および会員の出席で開催されました。

#### 1) 講演会

恒例の講演会は、「農学部開学110周年ミニ式典」 における「記念講演」に差し替えて行いました(講 演内容は7ページに記載)。

2) 令和元年度総会(15:00~15:30)

藤田会長の挨拶の後、議長として熊本 修氏(園 S59)が選出され、熊本議長のもとで下記の議案につ いて事務局の趣旨説明を行い、審議の結果、いずれ の事案も異議なく承認されました。

承認議案は以下の通りです。

(詳細は下段の評議員会報告に記載)

- (1) 平成30年度の事業報告(案)、一般会計収支 決算(案)、名簿特別会計収支決算(案)お よび功労者表彰特別会計決算(案)並びに監 査報告。
- (2)令和元年度の事業計画(案)、一般会計予算 (案)、名簿特別会計予算(案)および功労 者表彰特別会計予算(案)
- (3) 功労者表彰者の決定(案) について
- (4) 会則改正(案) について
- (5)役員の交代・改選(案)

#### 2. 評議員会

令和元年度評議員会は、令和元年11月13日 (水)、17:30からあらた記念会館で開催しました。

藤田晋輔会長並びに橋本文雄農学部長(顧問)の 挨拶の後、会長が議長を務め、総会に付議する事項 等について審議を行いました。

審議では、最初に(1)平成30年度の事業報告 (案)、一般会計収支決算(案)、名簿特別会計収 支決算(案)、功労者表彰特別会計収支決算(案) について事務局から説明、続いて監事から会計監査 報告があり、一括して質疑応答がありました。その 主要な論点は以下の通りでした。①「秋季会報については、学生会員、教員に加えて地域支部総会時に 出席者に配布したが、「平成31年春季会報」については、平成30年7月に「あらた同窓会会名簿」が5 年ぶりに発行され会員の住所判明率がアップしたこと、同号が「通常の春季号」に加えて、「鹿児島大 学農学部開学110周年特集号」として例年の約2倍の 増ページで発行されたことなどを踏まえて、「可能 な限り多くの会員に農学部と同窓会の近況や地域支部会やクラス会の情報などをお届けする」という会報頒布の本来の趣旨(平成28年度にも住所判明全会員に頒布)に則り、会報送付先住所が判明した全会員約10,000人(「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」、「旧賛助会員」を含む)に送付したこと、送付にあたっては、例年通り「会費納入振込用紙」を同封したこと、会費振込用紙を同封しない「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」、「旧賛助会員」宛には、平成28年度以降と同様に同窓会活動の活性化に役立てるための「賛助金」を募集することにしたことが報告されました。

審議の結果、いずれも提案どおり承認されました。

- (2) 令和元年度の事業計画(案)、一般会計予算 (案)、名簿特別会計予算(案)および功労者表彰 特別会計予算(案)、(3)功労者表彰者の決定 (案)について、(4)会則改正(案)について、
- (5)役員の交代・改選(案)について、それぞれについて事務局から提案・説明があり、審議の結果、いずれも提案どおり承認されました。

以上の事務局提案については、総会に付議することになりました。

#### 3. 常任幹事会及び幹事会

平成30年度の常任幹事会及び幹事会は、合わせて 5回(メール会議を含む)開催し、あらた同窓会報 (春季号と秋季号)の編集・発行、卒業生名簿の編 集・発行、会報および卒業生名簿の学生への配布、 評議員会並びに総会に付議する議案書の作成、学 生向け講演会の企画・実施、評議員の選出、会則改 正、功労者表彰者選出、学内幹事への謝礼のあり方 など、あらた同窓会の運営について協議しました。

#### 4. 会計監査

平成30年度の会計監査は、令和元年10月21日 (月)に黒木譲二、菊川明及び下川悦郎の3監事に よって実施され、本会の事業及び会計事務が適切に 執行されている旨の監査報告書が藤田会長に提出さ れました。

#### 5. 会報の発行と送付数行

鹿児島大学農学部あらた同窓会報は、3月25日に 春季会報(全会員向け)、11月23日に秋季会報(主 として学生会員向け)を発行しています。

このうち、秋季会報については、学生会員、教員に加えて地域支部総会時に出席者に配布しました。

春季会報については、先(評議員会の項)に述べたように平成31年(令和元年)度が農学部開学110

周年を迎えることから、通常の「あらた同窓会報春季号」に「農学部開学110周年記念特集」を加えて増ページとして発行することとし、平成31年3月25日に発行しました。頒布については、平成30年7月発行の「あらた同窓会会員名簿」で住所が判明しないる全会員(「80歳以上の会費免除会員」)に送付明会員」、「替助会員」及び「学生会員」)に送付明、多時にあたっては、例年通り「会費納入を同封しない、終身会員、80歳以上の会費免除者、終身会員および旧賛助会員宛には、平成28年度以降財会員および旧賛助会員宛には、平成28年度以降財会員および旧賛助会員宛には、平成28年度以降財会員および旧賛助会員宛には、下成28年度以降財会員が表別ではであるための「替助会員に同窓会活動の活性化に役立てるための「賛助金」を募集することにしました。「年会費納入者」は延べ1267名、「賛助金替同者」は193名でした。

#### 6. 学生向け講演会

本会と学部共催の学生向け講演会は、令和元年10月2日(水)、16:20~17:40 農・獣医共通棟101号教室において、平成28年から継続しているテーマ『「海外で経験し、学ぼう」 - 高等農林学校建学の精神から - 』で実施しました。今年は『「国際協力の現場から」 - 30年間の経験を通じて考えた途上国支援 - 』というテーマで林学科昭和63年卒の福山誠氏(国際航業株式会社・海外コンサルティング部)にお願いしました。教職員、学生合わせて50余名の学生が参加しました。講演要旨については令和元年11月23日発行の「あらた同窓会令和元年秋季号(学生向け会報4~5ページ)」に掲載しました。

#### 7. 地域支部との交流

同窓会本部は、地域支部から役員派遣の要請を受けた場合、その支部総会に役員を派遣して本学および学部や同窓会の近況を報告しするとともに、会員との交流を図りました。支部総会出席に当たっては「あらた同窓会会費」の納入促進の協力依頼も併せて行いました。

平成30年度の派遣先は、鹿児島あらた会、熊本あらた会、近畿・兵庫あらた会、岡山あらた会、佐賀あらた会および大分あらた会でした。

なお、令和元年度は「広島あらた会」 (10/12) 、「佐賀あらた会」 (10/18) 、「鹿児島あらた会」 (10/23) 、「熊本あらた会」 (11/15) 、「鹿児島市役所あらた会」 (2/5) 、「宮崎あらた会」 (2/15) 、「長崎あらた会」 (2/29) および「近畿・兵庫あらた会」 (5/31) が実施あるいは予定されています。

#### 8. 農学部開学110周年記念事業への 取り組みについて

「鹿児島大学農学部開学110周年記念ミニ式典」は、令和元年11月23日(土)に「あらた同窓会総会」に引き続いて、82人の来賓および会員が出席して、盛大に開催されました。

「農学部開学110周年記念ミニ式典」の詳細については本号5ページに記載してあります。ミニ式典では「会長挨拶」、「農学部長(顧問)挨拶」、「記念講演会」、「功労者表彰式」などを行いました。

#### あらた同窓会功労者表彰者の選出について (10ページ参照)

# 10. 「あらた同窓会会則改正」について (評議員会および総会で審議・承認)

「農学部あらた同窓会会則」は農学部の学科改組などの要因により、適宜改正してきたが、平成31年4月から大学院修士課程が水産学研究科と統合され「大学院農林水産学研究科」と改組されたことに伴い、会則第2章、第5条の「正会員」および「学生会員」を改正する必要が生じたので、幹事会で文言の改正について検討しました。同時に、会則の数か所に文言が実態と合致していない個所があるとの指摘があり、条文の記述の改正を検討し、承認された「鹿児島大学農学部あらたにた。総会で承認された「鹿児島大学農学部あらたたのます。なお、会則第5条の「学生会員」の文言は大学院農学研究科の大学院生が在籍しなくなる令和4年度には再改正が必要です。

# 11. 『鹿大「進取の精神」支援基金』への取り組みについて

平成29年度に『鹿大「進取の精神」支援基金』として300万円を一括寄付しました。300万円のうち、150万円は平成28年度一般会計の剰余金から拠出し、残りの150万円については基金特別会計から一時借用しましたが、そのうち50万円については平成30年度の一般会計から返還しました。今後も令和元年度および令和2年度にはそれぞれ50万円を返還する予定です。

#### 12. 鹿児島大学同窓会連合会

同窓会連合会では、平成31年度総会および懇親会を平成31年4月6日(土)に開催しました。あらた同窓会からは顧問、会長、副会長、評議員、その他、合計22名が出席しました。総会では、鹿児島大学から学長および総務担当理事が出席し、大学との連携方策を話し合いました。その他、役員会(会長と常任副会長が出席)および幹事会(常任副会長が

出席)が各3回開催されました。そこでは、各同窓会の活動状況、大学が行っている各種取り組みへの協力・連携などの情報および意見交換を行いました。同窓会連合会では、年間2回の会報を定期発行しており、本会では本部総会及び地域支部総会時に出席者に頒布しました。

さらに、令和元年12月12日(木)に「鹿児島大学 創立70周年記念式典」と「記念シンポジウム」が鹿 児島大学稲盛会館(キミ&ケサメモリアルホール) にて歴代学長など来賓を含め300名を超える参加者 を迎えて開催されました。記念式典では佐野 輝学 長の基調挨拶に続き、三反園鹿児島県知事、淵上文 部科学長高等教育局長、冨永鹿児島大学同窓会連合 会会長の祝辞が述べられました。引き続いて、宮崎 千葉商科大学教養学部長(田中一村記念館長)の記 念講演「国際人育成の視座」の後、岩井鹿児島大学 理事・副学長をモデレーターとして6名のパネリス トによる「豊かな自然と文化を有する奄美の未来を 考える」というパネルデスカッションが行われまし た。

同日、鹿児島大学工学部卒業生で京セラ名誉会長の稲盛和夫氏(鹿児島大学名誉博士)が寄贈された「稲盛記念館」のオープニングセレモニーが場所を移して行われました。セレモニーでは金澤稲盛財団理事長のメッセージ代読に始まり、稲盛記念館内の「フードコート」、「レストラン Vege Marche」、「京都賞ライブラリー」、「稲盛ライブラリー」などの見学後、祝賀会が盛大に行われました。なお、稲盛記念館には一般の方も自由に出入りできます。

#### 13. その他

平成28年度以降の取り組みにおいて、同窓会財政が少しずつ改善されてきています。しかし、会員からの会費納入率は頭打ちになり、新入生にお願いしている「入会金」納付率は年々減少しています。引き続き、会費および入会金の納入促進策を検討し、具体的に実施するとともに「あらた同窓会」運営の合理化と経費の節減に努めていきます。

## **賛助金および寄付者ご芳名**(平成31年3月4日~令和元年11月26日)

学科卒年	E	£	彳	3
現賛助	橋	本	文	雄
旧賛助	青	木	孝	良
旧賛助	黒	田	治	之
旧賛助	小	崎		格
旧賛助	小	島	孝	之
旧賛助	竹	田	靖	史
旧賛助	田	邊	幾人	と助
旧賛助	堀	П		毅
旧賛助	湯	Ш	淳	_
AS18	安	田		繁
AS19	吉	岡	季	雄
AS22	大	渕		深
AS22	春	松		高
AS22	中	村	秀	徹
AS23	福	留	達	夫
AS23	玉	利	半	Ξ
AS24	坂	田田	寿	生
AS25	湯。		光	
AS25	深	町	十	吾
AS25	田田	上		
AS25	岡	留		欠郎
AS25	江	畑	正	之
AS26	中	島	英	男
AS26	上人	ノ薗	7	誠
AS26	八八	幡	正	則
AS26	堂	元		典
AS28	寺	尾	正	- 徳
AS29	井	<u></u> 上.	晃	1725
AS29 AS29		_ <u></u> 質川	國	男
AS30	福	田田		力
AS31	т <del>ш</del>	宅	玉	
AS31	佐	竹	虎	雄
AS31	和		誠	男
AS31 AS31		ш_	- 誠 見	尹 孝
AS31 AS31	福村	<u>山</u> 井		<u>争</u> 夫
<del> </del>	村工		敏工	
AS31	石加	井	正	徳_
AS32	加松	来	節	夫
AS32	杉	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	连	旭
AS32	石宮	畑図	清业	武町
AS32	富士	出	光	則
AS32	古虫	市	吉四	男
AS33	実	藤	昭	作型
AS33	内	D.I.	或	弘
AS33	荒	Ш	<u> </u>	光
AS33	原	-	正	長
AS34	神	古四	善善	茂田
AS34	師	岡	光	男
AS34	江	崎	п÷	弘
AS35	井	П	時	治

学科卒年	E	£	名	
AS35	中	西	喜	彦
AS36	原	田		涬
AS36	小	原	正	俊
AS36	松	本	浩	
AS37	Щ	本	明	人
AS37	Ш	尻	逸	雄
AS37	濵	脇	吉刀	3夫
AS39	今	屋		洋
AS39	堀	切	俊	幸
AS40	橋	元	紘	爾
AS41	岩	猿	敬	文
AS42	富	岡	忠	勝
AS42	江	田	耕	造
AS45	入	江	潤	三
AS47	池	端	裕	昭
AS47	橋	本		洸
AS48	髙	橋		氣
AS49	巣	瀬		司
AS52	北	野	常	盤
AS52	平	井	正	明
AS52	永	井	定	明
AS53	佐人	木	幸	子
AS56	三	井	寿	_
AS56	Щ	下	修	司
FS18	宮	原	房	夫
FS19	今	村	正	治
FS19	伊	藤	靖	彦
FS22	木	村	義	章
FS22	時	崎	勝	彦
FS23	Щ	П	荘	治
FS23	元	野		繁
FS23		ラ園	陽	徳
FS24	小	幡	辰	雄
FS24	紀	野	武	夫
FS26	那	須	袈	春
FS26	小	牧	昌	文
FS28	金	堂	正	芳
FS28	長	濵	三	F治
FS30	丸	尾	睦	夫
FS31	友	成	明	夫
FS31	濵	田	直	章
FS31	岩	﨑	健	生
FS31	吉	永		豊
FS31	野	口	英	昭
FS31	竹	添	隆	志
FS31	藤	本	_	夫
FS32	上	野	達	木
FS33	芝	﨑	政	_
ECOO	H		ı⇒	417

FS33

信一郎

学科卒年	E	E	彳	5
FS34	田	浦	祐	信
FS34	Ш	邉	恭	右
FS35		宮	隆フ	た郎
FS35	中	Щ	安	宅
FS35	田	丸		正
FS36	後	藤	幸	夫
FS38	平	野	朝	彦
FS39	西	田	孝	義
FS43	南			誠
FS45	池	本	文	雄
FS48	楠	本	敬	憲
FS49	千	堂	俊-	一郎
FH4	堀		智	弘
FH5	小	原		誠
CS16	景	浦	泰	三
CS18	綾	野		正
CS19	種子	Z島	_	弘
CS22	前	田	忠	=
CS23	津	野	林	士
CS25	榎	田		明
CS26	松夕		好力	大朗
CS26	岡	本	敬	治
CS28	市	来	秀	夫
CS29	原	田	幸	蔵
CS29	宇田		義	夫
CS29	高	屋	重	夫
CS30	福	永	隆	生
CS30	有	Ш	弘	道
CS31	日	高	拓	満
CS31	慶	田	喜	徳
CS31	平	Ш	義	利
CS33	野	П	純	隆
CS34	西	迫	順	弘
CS34	藤	本	滋	生
CS34	Щ	下		實
CS34	堤		将	和
CS34	小	Ш	泰	雄
CS34	長名	}場		彰
CS36	松	原	弘-	一郎
CS36	與古		幹	也
CS36	前	田	好	美
CS37	堀	田	宗	浩
CS37	松	尾	茂	久
CS38	高	尾	忠	行
CS40	村	上		暁
CS42	井	Ш	隼	次
CS49	森	田	耕	造
CS50	西	澤	保	孝
CS52	酒	井	知	子

学科卒年	E	£	名		
CS59	南		雄	二	
SS22	増	田	信	己	
SS24	田	原	富貞	貴男	
SS29	橋	П		勉	
SS32	今	村	俊	男	
SS32	猩	々	武	徳	
SS35	林			満	
SS35	阿	南	忠	義	
SS36	堀ぇ	と内	厚	志	
SS40	Ш	原	俊	秀	
SS40	濱	田	勝	弘	
VS20	岩	永	重	義	
VS22	横	田		修	
VS29	松	本	良	_	
VS29	堤	•	兼	利	
VS31	蔵	原	久	輝	
VS33	藤	田田		満	
VS35	島	松	角な	人雄	
VS36	松	元	計	±	
VS36	西口			駿	
VS37	石	田	文	洋	
VS43		瀬	捷	明	
VS56	植	原		忠子	
VS59	青	木	英	晃	
VS60		木		悟	
VH26	藤		祐		
GS34	鳩			正	
GS34		     野	貞	雄	
GS35	窪		孟	弘	
GS35	丸	<u>山</u>	孝	男	
GS35		 馬越		馬	
GS36		5/ <u>-</u> 京井	庸	夫	
GS39	植		治	夫	
GS39	安	藤	1111	將	
ZS44	川	添	健	—- "ia	
ZS47	的	野	英	夫	
ZH5	上	田田	治	子	
ES42	稲		豊	実	
ES49	中	村	ᅭ	隆	
ES59	北	原	腎》	欠郎	
HS48	野	村	貝ク	悟	
HS48	富	永	茂	人	
HS51	原	/1/	12	耕	
HS52	岩	田	賢	士:	
HS55	井	上	只	進	
HS56	光	山		潔	
HS56	空	関	宏	典	
環H 7	寺	本	行	芳	
環 MH23	上	野	1J 治	<u>万</u> 美	
+7R 1V111LO	ㅗ	圢	1口	大	

#### あらた同窓会役員名簿

#### 令和元年度11月23日現在

#### 名誉会長 顧 問 橋本 文雄 (賛助) 会 藤田 晋輔(林37) 長 護 (林38) 佐野 岩男 (農49) 副会長 浮津 田中 隆義(農59) 冨永 茂人 (常任・園48) 監 事 下川 悦郎(林44) 黒木 譲二 (農47) 菊川 明 (農48) 常任幹事 庶務担当 田浦 悟(農59) 雄二 (化59) 会計担当 末吉 武志 (農工平5) 会報担当 樗木 直也(化58) 遠城 道雄 (院農59) 寺本 行芳(環平7) 名簿担当 津田 勝男 (農55) 広報担当 瑞樹 (農工62) 幹 事 坂井 教郎 (賛助) 吉田 理一郎 (賛助) 奥山 洋一郎 (賛助) 彰(畜平1) 花城 勲 (院農化平6) 髙山 耕二 (院生平8) 鶴丸 博人(資平13) 一二三 達郎 (獣平22) 評 議 員 脇 秀一郎(農41) 東 孝行(農46) 大津 清司 (農53) 覚(農56) 南薗 西田 和夫(農57) 溝添 俊樹 (林41) 大坪 弘幸(林45) 永田 鉄山(蚕30) 大岩 勝徳(蚕36) 稲永 醇二 (化42) 星野 泰啓(化58) 堀之内達男(獣33) 新納 時英(獣44) 高橋 亘 (獣46) 佐々木 幸良 (獣58) 中村 博大(畜43) 吉嶺 彰二 (農工52) 東久保研一(園48) 酒瀬川 洋児 (園56) 大久保 祐司(生平6) 石橋 松二郎(資平6) (役職指定) 各地域支部長 農学部副学部長および学科長 鹿児島支部幹事

#### 平成30年度 一般会計決算書

収入額 8.205.337円 支出額 5.844.567円 繰越金 2.360.770円

#### 収入の部

項目	予算額	決算額	差 異	
会費	4,830,000	4,576,000	254,000	
年会費	2,400,000	2,534,000	△134,000	延べ1,267名
入会金	2,080,000	1,802,000	278,000	新正会員14名 (42,000) 在校生5名 (50,000) 新入生160名 (1,600,000) 卒業生11名 (110,000)
懇親会費	350,000	240,000	110,000	総会会費(48人分)
賛助金	100,000	1,059,376	△959,376	拠出者193名
雑収入	360,000	365,008	△5,008	寄附金(365,000) 利子(8)
繰越金	2,203,985	2,203,985	0	
繰入金	2,000	968	1,032	基金利子
借入金	0	0	0	
合計	7,495,985	8,205,337	△709,352	

#### 支出の部

項目	予算額	決算額	差 異	
会議費	478,000	389,906	88,094	
総会費	378,000	291,600	86,400	総会会費(5,400円×54名)
役員会費	100,000	98,306	1,694	幹事会、会計監査、 評議員会
事業費	2,820,000	2,674,539	145,461	
印刷費	750,000	734,390	15,610	学生向け会報 (99,360) 封筒・会則 (16,200) 春季号会報 (618,830)
卒業祝賀会費	300,000	300,000	0	
支部交付金	200,000	188,800	11,200	広島 (4,400) 熊本 (11,200) 近畿 (2,800) 兵庫 (2,400) 鹿児島 (168,000)
旅費	200,000	176,680	23,320	熊本 (30,860) 近畿·兵庫 (60,600) 佐賀 (36,960) 大分 (48,260)
通信運搬費	1,300,000	1,224,669	75,331	会報送料(1,056,693) 振込手数料等(167,976)
講演会費	20,000	0	20,000	
功労者表彰 積立金	50,000	50,000	0	令和元年度実施予定
事務局費	1,770,000	1,512,962	257,038	
役員報酬	360,000	520,000	△160,000	常任副会長(360,000) 幹事(160,000)
賃金	800,000	695,900	104,100	給料
備品費	160,000	6,631	153,369	プリンター
消耗品費	30,000	13,206	16,794	事務用品等
光熱水費	100,000	75,498	24,502	電気(68,314) 上下水道(7,184)
通信運搬費	200,000	156,855	43,145	インターネット接続料 (20,736) 電話 (71,989) サーバー使用料 (10,886) ハガキ・切手 (44,554) 送料等 (8,690)
賃借料	60,000	28,080	31,920	建物使用料(2019.4.1~9.30分)
慶弔費	60,000	16,792	43,208	
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	10,000	117,160	△17,160	同窓会連合会負担金 (2,500円×21名) 寸志等(64,660)
繰出金	1,050,000	1,050,000	0	
名簿特別会計へ	550,000	550,000	0	名簿特別会計へ
進取の精神寄付金	0	0	0	
基金特別会計へ	500,000	500,000	0	基金特別会計へ 注)
予備費	1,177,985	0	1,177,985	
合 計	7,495,985	5,844,567	1,651,418	

注) 基金特別会計から借用した1.500,000円は、年次計画で返却することとしたので、本年度は 500,000円を返却した。平成30年度に500,000円を返却したので、基金特別会計からの借用金 は1,000,000円となった。

#### 平成30年度 同窓会名簿特別会計決算書

収入額 1,812,678円 支出額 23,910円 繰越金 1,788,768円

#### 収入の部

項	目	予算額	決算額	差 異	
名簿代		0	4,500	△4,500	
雑収入		50	8	42	利子
繰越金		1,258,170	1,258,170	0	
繰入金		550,000	550,000	0	一般会計より
合計		1,808,220	1812,678	△4,458	

#### 支出の部

	項	目	予算額	決算額	差 異	
4	名簿作.	成費	50,000	23,760	26,240	
l	名簿	購入費	0	0	0	
	印刷	費	50,000	23,760	26,240	卒業生名簿 500部
ì	通信運	搬費	5,000	150	4,850	
ſ	人情報第	業務委託費	0	0	0	
Ē	予備費		1,753,220	0	1,753,220	
í	合計		1,808,220	23,910	1,784,310	

#### あらた同窓会資産表

令和元年9月末日現在

基金特別会計	
定期預金	
定期預金	
普通預金	
一般会計	
普通貯金	
名簿特別会計	
普通貯金	
功労者表彰特別会計	
普通貯金	

鹿児島銀行	10,000,000円
南日本銀行	2,000,000円
鹿児島銀行	601,548円
合計	12,601,548円
郵便局	2,360,770円
郵便局	1,788,768円
南日本銀行	377,420円
総計	17,128,506円

### 平成30年度 功労者表彰特別会計決算書

収入額 377,420円 支出額 0円 繰越金 377,420円

#### 収入の部

	•					
項	目	予算額	決算額	差	異	
繰越金		327,418	327,418		0	
繰入金		50,000	50,000		0	平成30年度積立金
雑収入		20	2		18	利子
合計		377.438	377.420		18	

#### 支出の部

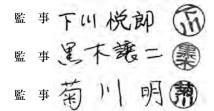
項目	予算額	決算額	差 異	
祝賀会費	0	0	0	
記念品費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
予備費	377,438	0	377,438	
合計	377,438	0	377,438	_

### 監査報告書

あらた同窓会平成30年度事業実績並びに会計について監査 しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、 事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認め ます。

令和元年10月21日

あらた同窓会



あらた同窓会

会長 藤田晋輔 殿

#### 令和元年度 一般会計予算書

収入額 7,742,870円 支出額 7,742,870円

#### 収入の部

BW 4: EI-				
項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
会費	5,280,000	4,576,000	704,000	
年会費	2,600,000	2,534,000	66,000	延べ1,300名
入会金	2,080,000	1,802,000	278,000	新入生 10,000円× (205名) 新正会員 3,000円× (10名)
懇親会費	600,000	240,000	360,000	総会会費、 同窓会連合会懇親会費
賛助金	100,000	1,059,376	△959,376	賛助金
雑収入	100	365,008	△364,908	利子等
繰越金	2,360,770	2,203,985	156,785	
繰入金	2,000	968	1,032	基金利子
合計	7 742 870	8 205 337	△462.467	

#### 支出の部

770 11				
項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
会議費	650,000	389,906	260,094	
総会費	550,000	291,600	258,400	総会費(5,500円×100名)
役員会費	100,000	98,306	1,694	幹事会、会計監査、 評議員会
事業費	1,970,000	2,674,539	△704,539	
印刷費	500,000	734,390	△234,390	会報 (秋季号、春季号)
卒業祝賀会費	300,000	300,000	0	
支部交付金	200,000	188,800	11,200	各支部へ
旅費	200,000	176,680	23,320	支部総会出席等
通信運搬費	700,000	1,224,669	△524,669	会報送料、振込手数料等
講演会費	20,000	0	20,000	講師謝礼等
功労者表彰 積立金	50,000	50,000	0	令和6年度実施予定
事務局費	1,930,000	1,512,962	417,038	
役員報酬	520,000	520,000	0	常任副会長、幹事
賃金	800,000	695,900	104,100	給料等
備品費	160,000	6,631	153,369	
消耗品費	30,000	13,206	16,794	
光熱水費	100,000	75,498	24,502	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	156,855	43,145	インターネット接続料、 ハガキ・切手等
賃借料	60,000	28,080	31,920	会館建物使用料
慶弔費	60,000	16,792	43,208	祝電、弔電等
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	117,160	82,840	
繰出金	800,000	1,050,000	△250,000	
名簿特別会計へ	300,000	550,000	△250,000	名簿特別会計へ
基金特別会計へ	500,000	500,000	0	基金特別会計へ 注)
予備費	2,092,870	0	2,092,870	
合 計	7,742,870	5,844,567	1,898,303	
いく せんれ 回 へきし	> /// FET > 1		the second second	51-500 000 M + 15-111 + 0-11

注) 基金特別会計から借用した1,500,000円のうち、平成30年度に500,000円を返却したので、借用金の残額は1,000,000円となった。本年度も500,000円を返却することとする。

### 令和元年度 同窓会名簿特別会計予算書

収入額 2,088,818円 支出額 2,088,818円

#### 収入の部

項	目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
名簿代		0	4,500	△4,500	
雑収入		50	8	42	利子
繰越金		1,788,768	1,258,170	530,598	
繰入金		300,000	550,000	△250,000	一般会計より
合計		2,088,818	1,812,678	276,140	

#### 支出の部

	項	I	本年度 予算額	前年度 決算額	差	異		
3	名簿作	成費	50,000	23,760	26	,240		
1	名簿	購入費	0	0		0		
L	印刷	費	50,000	23,760	26	,240	卒業生名簿	500部
j	通信運	搬費	5,000	150	4	,850		
	予備費		2,033,818	0	2,033	,818		
	合計		2,088,818	23,910	2,064	,908		

### 令和元年度 功労者表彰特別会計予算書

収入額 427,440円 支出額 427,440円

#### 収入の部

	項	目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
I	繰越金		377,420	327,418	50,002	
I	繰入金		50,000	50,000	0	令和元年度積立金
	雑収入		20	2	18	利子
I	合計		427,440	377,420	50,020	

#### 支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
祝賀会費	50,000	0	50,000	
記念品費	300,000	0	300,000	記念品・表彰状作成費等
雑費	30,000	0	30,000	
予備費	47,440	0	47,440	送料等
合計	427,440	0	427,440	

#### 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

第1章 総 則

(名称)

本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会(通称:あ らた同窓会)と称する。

(目的)

- 第2条 本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農 学部の発展に寄与することを目的とする。 (事業)
- 第3条 本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事 業を行う。 (1) 会報及び会員名簿の発行

  - (3)その他必要と認めた事項

(支部)

第4条 本会は、支部を必要な地に置くことができる。

第2章 会 員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員 をもって組織する。

正会員

庭児島高等農林学校卒業者 鹿児島農林専門学校卒業者

鹿児島大学農学部卒業者

鹿児島大学大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研 究科(農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受 けた)修了者

学生会員

農学部及び大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研 究科(農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受 ける) に在籍する学生

賛助会員

現賛助会員(現職教員)

旧賛助会員(退職教員)

会員は、住所等に異動が生じた場合、その都度事務局に 連絡するものとする。

第3章 役 員 等

(役員)

- 本会に次の役員を置く。 第6条
  - 会長 1名 (1) 1名 3名 常任副会長 (2)(3)副会長 (4)評議員 若干名 (5)監事 3名 常任幹事及び幹事 若干名 (6)
  - その他会長が認めた者 (7)

(役員の選任)

- 第7条 会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総 会において選任する。
- 評議員は、各地域支部支部長、農学部副学部長、農学部 各学科長及び幹事会が推薦した者、並びに鹿児島支部幹事 をもってこの任に当てる。
- 幹事は、農学部のコース等から推薦された者をもってこ の任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当 の常任幹事を互選する。

(役員の任務)

- 第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。 2 常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その
- 職務を代行する。 評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執
- 行上重要な事項を審議する。
- 監事は、事業実績並びに会計の執行状況の監査を行い、 その結果を総会に報告する。
- 常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事 業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。 (役員の任期)
- 第9条 総会で選任された役員の任期は2年とし、再任を妨 げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の任期は 前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

- 第10条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。
- 名誉会長は会長が委嘱する。
- 農学部長は本会の顧問とする。

名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べること ができる。

第4章 (会議)

- 第11条 本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。 (総会)
- 第12条 総会は、第5条第1項及び第10条に掲げる者をもっ て組織する。
- 総会は、次に掲げる事項を審議する。
  - (1) 役員の選任に関する事項
  - 事業計画及び事業報告に関する事項
  - 予算及び決算に関する事項
  - 会則の改廃に関する事項 (4)
  - その他会長が必要と認めた事項 (5)
- 総会は、会計年度開始から2ヶ月内に会長が招集する。
- 総会の議長は出席者の中から選出する。
- 議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、 議長の決するところによる。

(臨時総会)

第13条 臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。 臨時総会の議長の選出並びに議決は前条の規定によるも のとする。

(評議員会)

- 第14条 評議員会は、会長、常任副会長、副会長、評議員及 び監事をもって組織する。 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。 (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項 (幹事会)
- 第15条 幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって 組織する。
- 幹事会は、次に掲げる事項を協議する。
  - (1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
  - (2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

第5章 会 計

(経費)

- 第16条 本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。
- 正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付 する。
- 学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、 10,000円を納付する。 3
- 年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。 (会計年度)
- 第17条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日まで とする。 (監査)
- 第18条 監査は、会計年度ごとに行う。

第6章 事務局等

- 第19条 本会の事務を処理するために事務局を置く。
- 2 事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

(雑則)

第20条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必 要な事項は、別に定める。

附則

本会則は、昭和28年12月12日より施行する。

本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。 本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。 本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。 本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。

本会則は、令和元年11月23日より改訂施行する。

- 過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免
- 除する。 2 あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、5年 毎に行う。

## 編集後記

昨年10月18日に開催された同窓会鹿児島支部総会・懇親会でうれしいことがありました。うちの(植物栄養・肥料学)研究室の卒業生のY君が出てきていて、卒業以来、初めて再会できたのです。彼は気のいい男なのですが、就職先が決まっておらず、「定職には就きません、フリーターで行きます。」などと言っていたものですから、気にかかっていたのです。卒業して数年後、現在勤めている会社にちゃんと就職し、結婚もして頑張っているとのことでした。奇しくも彼の奥さんの親戚の方が同窓会役員の方で、その方に強く勧められて出席したとのことでした。出席していた経済連に勤めているO君(彼も久しぶりに顔を見たのですが)にも紹介して、3人で思い出話に花が咲きました。

同級生のクラス会は学生時代を共有した親しい仲間たちが集まりますから、積極的に参加しようという気になると思います。しかしたまには、「あらた同窓会」の催しにも参加してもらえれば有難いです。我われ教員も(特に年を取ってくると)、たまに卒業生の皆さんとお会いしてお話ができれば、こんなに楽しいことはないのだと実感しました。

(文責 食料生命科学科 樗木直也)

# 鹿児島大学農学部 あらた 同窓会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目 2 1-2 4 TEL·FAX 0 9 9 (2 8 5) 8 5 3 7 e-mail (aratakai@mc2. seikyo. ne. jp)

振 替 口 座 02010-2-876 事務局の業務日 月・水・金(10:00~16:00)

印 刷 所 株式会社鹿児島新生社印刷

住 所 鹿児島市七ツ島 1-3-21

TEL 099-261-0111 FAX 099-261-3100

E-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp



農学部附属農場の風景(上2枚は展示即売会、下は食用花の栽培)